

8160

第七號

決裁指定

閣

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----------------------|--|----------------------|--|----------------------|--|----------------------|--|-----------------------|--|-----------------------|--|-----------------------|--|-----------------------|--|-----------------------|--|-------------------------------------|--|
| 大官 了結 大正九年九月七日 | | 大官 領受 大正九年九月六日 | | 大官 出提 大正九年九月三日 | | 大官 領受 大正九年九月一日 | | 大官 號番 軍務部第一號 | | 決裁濟認證 | | 大臣 五 | | 件名 陸軍航空制度研究會設置ノ件 | | 受領 號 軍務部第一號 | | 連帶 名 航空隊 岩井保 工部深 三浦林 神位 齋藤 後同 | |
| 覽 長 | | 決行 局 | | 帶 長 | | 連 局 | | 局長 主務 參事官 | | 局長 主務 | | 次官 五 | | 高級 副官 松木 | | 名 軍事課 | | | |
| 長 課 | | 長 課 | | 長 課 | | 長 課 | | 課長 主務 課員 | | 課長 主務 | | 副官 官房 主計 | | 主務 副官 | | 主務 副官 | | | |
| | | | | | | | | 課員 主務 | | 課員 主務 | | 主計 官房 | | 副官 主務 | | 副官 主務 | | | |
| | | | | | | | | 者 記 筆 案 密 | | 者 記 筆 案 密 | | 者 記 筆 案 密 | | 者 記 筆 案 密 | | 者 記 筆 案 密 | | | |

陸軍部

大正九年七月廿五日
陸軍部第一號

決裁案

陸軍航空制度ニ関スル事項ヲ研究セシムル為
左記ノ通 陸軍航空制度 研究委員会ヲ設置シ
委員長ニ 副長ノ 通 副長ニ 度

左記

九月廿日

陸軍航空制度 研究委員会

委員長 中少将 一名

委員 将(佐)尉官 若干名

記ノ内一名ニ 幹事長

陸訓第三一 一 號 十月七日

右委員長以下ノ任命ハ 補任課ニ 於テ 行ハル

年々長官
十月十日付

(別紙)

陸軍航空制度研究委員会之其目的調査案

一、陸軍航空制度研究委員会

ノ情勢ニ鑑ミ左ノ事項ヲ

善^ク資^料ヲ得^ルニ在^リ

設置ノ目的ハ諸般
研究ニ航空制度ヲ改
善^スルヲ新邦ノ現況ニ適應セシムルヲ

1. 航空ニ関スル諸機關ノ編制制度施設

航空部隊ノ編制

2. 人員^及設備^ノ補充方策^ニ關シテ我邦ノ現狀ニ適應ス

3. 民間工場及同航空施設ニ對シテ要求^ノ便利

用方法

二、貴官ノ研究委員ヲ指揮シ研究終了セハ其

陸 尾

1260

ノ結果ヲ報告スルニ

ニ奉ルノ編成勅令ノ如シ

年月日

陸軍大臣

陸軍航空制度研究會委員長

陸軍航空制度研究委員会

委員長 陸軍航空部本部長

委員 陸軍航空部部長 五名

陸軍航空学校校長

陸軍航空学校教習部長

陸軍航空学校研究部長

航空局次長

航空局事務官 一名

参謀本部 二名

陸軍省軍務局航空課長

五

四

陸軍省軍事課長 藤田 義一 氏
 陸軍省軍事課長 佐野 健一 氏
 陸軍省軍事課長 藤田 義一 氏
 陸軍省軍事課長 佐野 健一 氏
 陸軍省軍事課長 藤田 義一 氏
 陸軍省軍事課長 佐野 健一 氏
 陸軍省軍事課長 藤田 義一 氏
 陸軍省軍事課長 佐野 健一 氏

航空部 佐野 健一 氏

一九二九年六月四日

航制第壹七號

航空制度研究ニ關スル件報告

陸軍航空制度研究委員長井上幾太郎

陸軍大臣 男壽田中義一殿

當委員ニ於テ研究セル尤記事項及報告候也

尤記

一、報告第一號 空軍建設、利害ニ關スル研究

二、報告第二號 航空兵科獨立並機關科分立、可否

以上

陸軍

0925



第七〇部内
第五號

陸軍航空制度研究委員会報告

第一號

大正九年十月二十四日

空軍建設ノ利害ニ關スル研究

判決

陸海軍航空部隊ヲ合シ空軍ヲ建設スルヲ要ス

要領

- 一 空軍省ヲ設置シ空軍ノ編制裝備教育其他航空一切ノ業務並ニ民間航空ヲ統轄ス
- 二 現在ノ陸海軍航空諸部隊ハ之ヲ空軍省ノ所屬ニ移ス
- 三 兵員ノ徵集ハ空軍ニ於テ實施ス
- 四 戰時陸海軍ニ配屬スヘキ航空部隊ハ陸海軍當局ノ要求ニ基キ空軍省之ヲ編成シ配屬スルモノトス
- 五 平時陸海軍ト協同演練スヘキ航空部隊ハ空軍省ノ統制ニ屬シ演習間若シテ特別事項ノ練習間ハ配屬セラレタル軍ノ關係

高級先任者ノ指揮下ニ入ル

六 空軍ハ陸海軍トノ共同作戰ヲ圓滿適切ナラシムル爲航空部隊ノ教育ニ關シ陸海軍當局ト常ニ隔意ナク意見ヲ交換シ最良ノ手段ヲ盡スモノトス

七 空軍建設ノ順序、方法ヲ定メ及之カ諸準備ヲ爲サシムル爲陸海軍其他ヨリ必要ノ人員ヲ以テ委員ヲ編成ス

理由

歐洲大戰ノ教訓ト科學進步ノ趨勢ニ循フルニ將來空中威力ノ優劣カ當ニ陸海軍ノ作戰ニ多大ノ影響ヲ及ホスノミナラス國情ニ依リテハ空中戰ノ結果戰局ノ決定ヲ見ルノ時期アリト云フモ過言ニアラサルナリ 英國ノ如キハ既ニ十九百十八年四月ヨリ空軍建設ヲ實施シテ益々之カ擴充ヲ圖リ米國ノ如キハ昨十九年以來本年ノ初頭ニ亘リ空軍建設ニ關シ朝野ノ大論争アリシモ軍部殊ニ海軍側ノ反對ニヨリ建設ヲ見ルニ至ラサリシモ^カ尚研究中ナ

ルカ如シ而シテ佛國ニ在リテハ其國防上接壤國ニ對スル作戰即
 ヲ陸戰ヲ主トスルニ拘ハラヌ空軍建設ヲ主張スルモノ有力トナ
 リ遠カラヌ之ヲ實現ヲ見ルニ至ルヘシ

我陸海軍ノ航空事業ハ漸ク其緒ニ就キツツアルモ相當威力ノ發
 揚ニハ尙前途遼遠ノ感ナシトセス又民間航空事業ハ甚ク幼稚ニ
 シテ眞ニ寒心ニ堪ヘサルモノアリ此際空中威力ノ一大發展ヲ講
 スルニアラサレハ國防上他日ニ噬臍ノ悔ヲ賜スニ至ルヲ恐ル
 而シテ之ヲ發展ヲ圖ルニ現在ノ如ク陸海軍箇々ニ之ヲ爲スヘキ
 ヤ將タ空軍ヲ建設シ統一セル計畫ニ基キ實施スヘキヤハ研究ス
 ヘキ重要問題ニシテ空軍建設ノ利害ハ之ヲ左ノ各項ニ分ケテ研
 究セハ自ラ其歸結ヲ得ヘシ

- 一 我帝國ノ國防上ヨリ見タル利害
- 二 我帝國ノ財政上ヨリ見タル利害
- 三 陸海軍ノ現状ヨリ見タル利害

四 指揮統御及教育上ヨリ見タル利害

一 我帝國ノ國防上ヨリ見タル利害

空中攻撃ニ對シ國防上ヨリ我帝國ノ位置ヲ稽フルニ我西方ニ近ク東亞ノ大陸アリテ之ニ結行シ北ヨリ南ニ亘リ延長約三千哩我國ト大陸トノ距離ハ恰モ空中襲撃ノ半徑内ニ在リ翻テ東方ニハ大平洋ヲ隔テテ強大ナル海軍國アリテ其洋上ヨリスル空中襲撃ハ自由ニ我都市又ハ港灣ヲ攻撃シ得ルノ狀勢ニ在リ此ノ如キ形勢ニ於テ國防ヲ全クセントセハ我空軍ノ勤作タルヤ單ニ局部的專守防禦ヲ以テ満足スヘキニアラサルハ彼ノ英本國力大戰中屢々獨ノ空中襲撃ヲ蒙リ若キ實驗ヲ嘗メタルニ見ルモ明ニシテ又斯一種空防ハ陸軍若ハ海軍ノミニ委シテハ決シテ十分ノ效果ヲ擧ケ得サリシコトモ英國ノ經驗ニタル所ナリ況ヤ我國ノ都市工場等ノ建造物ノ多クハ木造ニシテ爆撃ヨリ受クル慘害ノ眞ニ戰慄スヘキモノアルニ於テヲヤ、即チ空中防禦ノ要訣ハ敵ノ大

陸方面ヨリ來ルト海方面ヨリ來ルトヲ問ハス攻勢的ニ彼ノ根據
ヲ襲撃シテ殲滅的打撃ヲ與フルヲ第一着トシ威力アル獨立空
軍ノ力ニ籍ラサルヘカラサルハ明瞭ニシテ制空權ノ獲得ニ就テ
モ亦然リ蓋シ獨立セル空軍ニ依ルコトナク陸海軍航空部隊ノ協
同動作ニ依リ空防ヲ完ウセントスル意見ハ皮相ノ謬見タルヲ免
レス何トナレハ歐洲大戰中ニ於ケル英國其他列強ノ實驗ニ徴ス
ルモ陸海軍ハ各自己ノ立場ヲ主トシテ各其航空隊ヲ使用スルヲ
以テ空防上圓滿ナル協調ヲ保持シ能ハサルヲ示セルニアラスヤ
論者中或ハ我帝國ノ大陸ヨリスル空中襲撃ハ隣邦タル支那又ハ
露國現時ノ狀勢上當分有り得ヘキ狀況ニアラス又米國ト開戦ス
ルトスルモ彼カ多數ノ航空兵力ヲ其本國ヨリ比律賓又ハ支那ニ
輸送スルハ容易ノ業ニアラサルヲ以テ空軍建設ハ現時ノ喫緊問
題ニアラストノ説ヲナスモノアルヘシ然レトモ大陸方面ヨリス

ル敵ハ必スシモ露、支ノミト考フルハ餘リニ單純ナル論據ニシ
 テ露、支兩國ハ當分強大ナル空軍ヲ保持シ得ストスルモ我帝國
 ニ打擊ヲ與ヘントスル第三國ハ露、支ヲ誘フテ之ヲ自家藥籠中
 ノ虎ノトナサントスルハ國際ノ權道ナリ果シテ然ラハ東亞ノ大
 陸ニ歐洲ヨリスル航空機ノ輸送ハ必シモ海路又ハ鐵路ノ如キ迂
 遠ナル手段ニ出テサルモ過般來朝セシ伊機ノ如ク自ラ空中ヲ飛
 行シ來ルヘク又米國ノ紐育「アラスカ」間長距離飛行ノ好成績
 ヲ攀ケタルニ徴スルモ彼カ「アラスカ」西比利「経テ我帝國ヲ
 空中攻撃スルノ可能ヲ示スモノニシテ駭々タル航空機ノ進歩發
 達ニ稽フレハ曷如タルヲ得サルモノナリ尙現ニ英米等ノ航空機
 製造會社ノ支那ニ於ケル活躍ハ近キ將來ニ於テ彼地ニ航空機製
 造會社ノ設立ヲ見ルニ至ルヲ思ハシム實ニ我國防ノ危機ハ空

ニアルコト識者ヲ俟タスシテ明ニシテ陸海軍ノ一機關トシテ微
 タタル進歩ニ甘ニスヘカラサルト共ニ戦時軍ニ陸海軍ノ作戦ニ
 ノミ追隨シテ帝國ノ空防ノ缺陷ヲ認容スヘキニアラサルヤ知ル
 ヘキナリ

二 我帝國、財政上ヨリ見タル利害

陸海軍別々ニ航空ノ發達ヲ企圖スレハ其間如何ニ圓滿ナル協調ヲ保持セントスルモ其施設上ニ於テ一部ノ重複ハ到底免カレル能ハサルヘク又基礎的制度ヲ異ニスル以上施設ノ厚薄ヲ生スルハ自然ニシテ之等ノ經費モ統ヘセル空軍ニ比シ自ラ多大トナルヘキハ明ニシテ平戰兩時ニ亘リ國家財政上ノ不利ハ蓋シ渺少ナラサルヘシ彼ノ英米ノ如キ財力豊ナル國家ニ於テスラ空中兵力ノ整備ハ多大ノ經費ヲ伴フヲ以テ大ニ苦心ヲ爲シツツアルカ如シ、我帝國ニ於テハ狭小ナル國土ノ利用ハ勿論經費ノ利用ニ就テモ做令零碎ノ微ト雖モ苟モセス之ヲ一途ニ活用シテ國防ノ完備ヲ企圖セスンハアルヘカラス

三 陸海軍ノ現状ヨリ見タル利害

我帝國國防上ノ危機空中ニアリトスレハ權威アル空軍建設、切要ナルコト最早論議ノ餘地ナシト雖モ之カ建設ハ國家ノ一大難

事業ナリ而シテ陸海軍共ニ其作戰ニ必要ナル航空兵力ト各其特
 種ノ教育トヲ要シ今ヤ陸海軍共ニ漸ク航空部隊ノ創設其緒ニ就
 キツツアルニ際シ之ヲ分離シテ獨立セル空軍ニ編合セントスル
 ハ諸般ノ關係上不利多ク就中陸海軍ノ三軍鼎立スルノ曉ニ軍相
 互ノ協調ハ益々至難ノモノアルハク遠キ未來ハ別トシ假令強大
 ナル空軍ヲ有スルモ戰局ニ最終ノ決ヲ與フルハ陸海軍ニシテ空
 軍建設ノ結果ハ陸海軍ノ作戰ヲ制肘スルノ虞アルヲ以テ現在ノ
 儘ノ制度トナシ陸海軍箇々ニ空中威力ノ擴張ニ力ムルヲ寧ク有
 利トナスヘシトノ實行論ヨリ空軍建設ヲ否トスルノ說ハ陸海軍
 間ニ起ルヘキ問題ナルヘシ而シテ此問題ハ既ニ述フル如ク米國
 ニ於テハ一時的歸結ヲ見タリト雖モ米國ト我帝國トハ其國情ヲ
 異ニスルノミナラス國家ノ財力ニ於テモ將タ工業力ニ於テモ至
 大ノ延庭アルヲ以テ彼ノ說ヲ直ニ採ラ我帝國ニ通用セントスル
 ハ思ハサルノ甚シキモノニシテ凡ソ劣弱ナル勢力ヲシテ偉大ノ

進歩飛達ヲ遂ケシメントモハ須ラク獨立シタル制度ノ下ニ統一
 シ他ノ制肘ヲ受ケシメサルコト緊要ナリ
 現在、航空部隊ハ未ダ陸海軍ノ一兵科トモ認メラレサル集合體
 ニシテ陸海軍トシテハ常ニ他兵他部トノ權衡ヲ顧慮セサルヘカ
 ラサル關係アリ空防ノ忽ニスヘカラサルコトハ認メラル所ナ
 ルモ陸海軍内ノ重要ナル設備ヲ後ニシテ航空事業ニ多大ノ經費
 ヲ投スルカ如キハ難事ナルカ如ク之カ爲航空事業ハ深刻ナル飛
 達ヲ遂クル能ハス而已ナラス陸軍航空隊ハ陸軍、諸制度海軍航
 空隊ハ海軍ノ諸制度ヲ基礎トシテ成立セル結果人員ノ補充、器
 材ノ補給、製造、豫算、編成等ニ至ルマテ自ラ軒輊アリ殊ニ戰
 時所要ノ兵力ニ對スル平時兵力ノ準備ニ於テモ多大ノ差違アリ
 テ斯ノ如キハ莫大ノ經費ヲ要スル航空隊ノ兵力整備上決シテ有
 利ナルモノニアラサルヘシ論者ノ憂フル如ク陸海軍各特種ノ教
 育ハ空軍ヲ獨立スルモ決シテ其手段ナキニアラス（其手段ハ後

文ニ述フ

英國ニ於テモ空軍獨立セル爲メ陸海軍航空事業ニ不便ト退歩ヲ云々スル若干ノ將校無キニモアラスト雖モ其論據ハ多クハ航空ニ関^{シテ}理解ヲ有セス所謂省ノ半面ニ執着セル未練論ニ過キスニテ何等首肯スルニ足ルヘキモノナク現ニ英國空軍省ハ着々事業ヲ統一シ航空ノ進歩ヲ求メツツアルニアラサヤ又仰圖ハ英國ノ例ニ倣ヒ空軍獨立ノ必要ヲ認め近ク千九百二十一年頃ヨリ其實現ヲ見ルニ至ルヘント云フ

要スルニ利害得失ヲ國家的見地ヨリ判別セハ航空事業ハ陸海軍箇々ニ祭達セシメントスルハ不可ナリ

四 指揮統御及教育上ヨリ見タル利害
 空軍建設ニ關シ英米ヲ於ケル主要ナル反對意見ヲ綜合スレハ左
 ノ諸項ニ歸着ス

- (1) 空軍ヲ獨立スルトキハ戰時陸海軍ニ必要ナル航空部隊ノ
 配屬ニ當リ陸海軍指揮官ノ指揮統御上不便ナカラス
- (2) 作戰上陸海軍ノ要求スル空軍ノ兵力ニ於テ陸海空三軍ノ
 協調果シテ圓滑ナルヲ得ルヤ疑問ナリ
- (3) 陸海軍共ニ其固有ノ戰闘上密接ナル連繫ヲ要スル動作例
 ハ偵察殊ニ射撃ノ觀測等ハ空軍獨立セハ其技能低下スヘ
 シ故ニ陸海軍ハ恰モ陸軍ニ歩、騎、砲、工等ノ諸兵種アル
 カ如ク海軍ニ戰艦隊、巡洋艦隊、水雷戰隊等ノ各種アルカ
 如ク各其固有ノ戰闘上ニ必要ナル航空部隊ハ陸海軍自ラ之
 ヲ有スルヲ至當トス

如上ノ各主張ハ單ニ陸海軍ノ立場ヨリ之ヲ觀察スレハ固ヨリ相

當ノ理由アリ空軍建設ニ際シテハ顧慮セサルヘカラサル問題ナ
 リ然レトモ之カ爲獨立空軍以外ニ陸海軍各其航空隊ヲ有スルハ諸
 般ノ統制上不利大ナルノミナラス諸施設ヲ重複セシメテ國費ノ
 尨大ヲ來シ遂ニハ何レモ完全ナル發達ヲ遂クルニ至ラサルヘシ
 而シテハニ關シテハ陸軍ニ在リテモ戰時軍隊區分ニ依ル一時的
 部隊ノ編合以カラスシテ其指揮統御ト大ナル是違ナカルヘク又
 海軍ニ於テモ戰時始メテ聯合艦隊ヲ編成シ之ヲ指揮スルニ兎ル
 モ指揮統御上ノ關係ハ同様ナルヘシ蓋シ戰時陸海軍ニ配屬スヘ
 キ航空隊ハ平時ヨリ陸海軍ノ要求ニ應シ教育訓練セラレ陸海軍
 ト常ニ協同演練シ陸海軍ニ親近シアラシムヘキヲ以テナリ。而
 シテ尚其不利ヲ醫セムトセハ戰閉序列ニヨリ之ヲ配屬シ純然タ
 ル陸海軍部隊ノ如ク當ニ指揮ノミナラス經理衛生等モ陸海軍ノ
 統制下ニ入ラシムルハ可ナルヘシ(2)ニ關シテハ平時ヨリ三軍間
 ニ隔意ナク且公平ニ協定シ置クヘキ問題ニシテ固ヨリ一ノ難問

ナルモ各軍ノ最高級者ニシテ虚心坦懷ナルニ於テハ満足ナル恢
 調ヲ得ルコト敢テ難カラサルヘク過去ニ於テ陸海兩軍協調ノ實
 ラ示シ現ニ陸海軍ニ於テ更ニ協調ノ歩武ヲ進メツツアルニアラ
 スマ(3)ニ関シテハ空軍中平時ヨリ陸海軍ニ配屬スヘキ航空部隊
 ヲ定メ之ヲ施設教育ニ関シ陸海軍當局ノ要求ニ應スル如ク實施
 シ且常ニ協同動作ノ演練ニ勉メ陸海軍ニテ施行スル主要ナル演
 習ニ參加セシムル如クセハ決シテ技能ノ低下ヲ來スカ如キコト
 無ルヘシ之ヲ要スルニ空軍建設ハ帝國ノ國防上喫緊ノ問題ニシ
 テ空防ノ完備ハ空軍ノ獨立ニ俟タサルヘカラス而シテ空軍ノ教
 育訓練適當ナレハ決シテ累ヲ陸海軍ノ作戰ニ及ホスヘキモノニ
 非スシテ獨立空軍ノ威力ニ依リ益々陸海軍ノ作戰ヲ有利ナラシ
 ムルモノトス之ニ反シ空軍建設ノ害トスル所ハ多クハ陸海軍ノ
 現狀ニ立脚セル杞憂ニ過キスシテ之ヲ芟除シ輕減スルノ方法ハ既ニ
 述フル如ク多クアリテ存ス故ニ我帝國ハ速ニ列國ト比肩スヘキ

0940

空中威カヲ保有シ空防ヲ全フスル爲獨立セル空軍ヲ建設スルヲ
最大急務ナリト信ス

0941



五〇部内
第五號

陸軍航空制度研究委員報告

第一號

大正九年十月二十四日

議題

航空兵科獨立並機關科分立ノ可否

第一 航空兵科獨立ノ可否

判決

航空兵ハ遠ニ之ヲ獨立セルハ兵科ト為スヲ要ス

理由

一、進級状態ノ關係

従来航空兵科獨立ノ難事ト認メラレシモノハ其人事進級ノ關係各兵科ニ比シ良好ナラザルハキヤノ虞アリシニ依レリ然ルニ現下陸軍航空界ノ實況ニ依リテ之ヲ觀察スルニ現例ノ儘

大正九年十二月二十二日
陸軍航空制度研究委員會

| 中(少)尉 | 大尉 | 少佐 | 中佐 | 大佐 | 少将 | 中将 | 階級 | |
|-------|-----|------|-----|----|-----|----|--------|------|
| | | | | | | | 區 | 分 |
| 三四 | 二〇 | 四 | 二 | 二 | | | 航空第一 | 第二大隊 |
| 七六 | 五六 | 八 | 四 | 四 | | | 航空第三 | 第六大隊 |
| 一一 | 三 | 一 | | | | | 気球隊 | |
| | 二 | 一 | 一 | 一 | | | 陸軍省 | |
| | 一 | 一 | 一 | | | | 参謀本部 | |
| 一一 | 一〇 | 五 | 三 | 二 | | 一 | 航空部 | |
| 三九 | 四五 | 一九 | 九 | 三 | 一 | | 航空学校 | |
| | 一 | 二 | 一 | 一 | 一 | 一 | 航空局 | |
| 一七一 | 一三八 | 四一 | 一一 | 一五 | 二 | 二 | 計 | |
| 一七一 | 一一二 | 四五四 | 二六 | 一一 | 五〇 | 一八 | 理想 | |
| | 二六 | (四〇) | (〇) | 一九 | (三) | 〇 | (不足) 過 | |

又ノ獨立セシムルモ人事上各兵科ニ比シ逊色ナリ若シ将来ノ施設ニ意ヲ用フル時ハ各兵科ニ比シ之ヲ良好ナラシムルヲ得ヘキハ航空力尙多クノ未来ヲ有スルニ於テ炳ナリ
 今現平時編制完成ノ境ニ於ケル足員ト理想ノ足員トヲ比較スルトキハ次ノ如シ

備考

一、人員ノ算定中ニ階級ニ通スルモノハ上級ノモノヲ記入セリ但尉官ハ大尉ト中(少)尉トヲ二分シ一宛能當セリ

二、過(不足)欄中(一)ヲ附セルハ不足ヲ示ス

航空兵科將校ハ前記部隊ノ外現制ニ於テ充用ノ位置多シ例ハハ左ノ如シ

參謀本部 第一部 第二部 第四部

陸軍省 軍需課 器材課 工政課

砲兵工廠 機器製造所

師團 參謀 副官 兵器部員等トシテ特ニ航

空隊ヲ編合シアル迄 第十六 第十八

第二十師團ニ必要トス

士官學校及其他ノ學校 各兵科將校ヲ充當シ得ル教

官其他

右ノ外將系中隊長ヲ少佐(大尉)トシニ大隊ヲ以テ聯隊トシ

又ハ製造補給等ノ部隊ヲ獨立セシムル場合必要ナル人員ヲ
 考フル時ハ既ニ將官以下ノ人員ヲ必要トスルヤ當然ニシテ
 前述ノ理想ニ對スル不足ヲ補フニ充分ナルノミオラス下士
 ヲ以テ將校ヲ補充スル時ハ進級状態ハ益良好ナルヤ明ナリ
 加之近時各兵科カ進級ノ關係上幾多人事上ノ位置ヲ作リツ
 ツアルニ稽フル時ハ航空兵獨立問題解決上之カ進級状態ニ
 於テ何等悲觀スル所ナキヲ斷言シ得、論者中ニハ他兵科ト
 ノ轉換特ニ上長官ヲ原兵科ニ轉歸セシメテ進級ノ途ヲ闡ク
 時ハ兵科ノ獨立ヲ俟タサルモ可ナリトスルモノアリ之レ一
 面ノ理由ニシテ他ノ無形上ノ理由ヲ願ミサルノ言ナリ繼テ
 轉歸ノ實情ヲ考フル時ハ轉歸ニ依リ原兵科ノ進級ヲ阻害ス
 ルハ爭フヘカヲサル事實ニシテ所帶小ヲキ特科部隊ニ於テ
 特ニ然リ又轉歸本人モ此中ニ投スルハ餘リ好レカヲサル所
 ナルハシ抑モ兵科ノ獨立ニ合當スル以上全然別他ノカニ拘

二、無形上ノ利益

ルコトナク自給自足以テ兵科獨立ノ尊嚴ヲ傷ケサルヲ本願ト
 セサル可カラズ
 現制ニ於ケル航空關係者ヲ觀ルニ各兵科ヨリ成ル一時的編合
 ナルヲ以テ或ハ將來ヲ杞憂シ或ハ腰櫛的ニ心ヲ抱キ研究、勤
 務ニ専心ナラス既ニ以テ尉官ニシテ斯ノ如キ心理状態ニ在ル
 モノ不尠ハ覆フヘカラサル事實ニシテ所謂上下團結シテ國軍
 航空界ノ榮達ニ資スルノ念ヲ缺キ以テ我陸軍航空界不進歩ノ
 主因ヲ釀成セリ今尙之ヲ詳説センカ現在ニ於ケル航空各部隊
 ノ將校團ハ雜然各兵科將校ノ集合ニシテ而モ轉官入多ク殆ト
 將校團ノ形式ヲ成サス嘗テ師團ノ新設ニ際シ同兵科ノ各部隊
 ヲリ將校ヲ轉入セシモ尙將校團ノ團結ニ困難ヲ感シタルニ鑑
 ミルトキハ動モスレハ個性ヲ發揮シ易キ飛行機操縦者ヲ以テ
 組織セル航空隊將校團ノ團結ヲ求ムルノ困難ヲ想像スルニ難

カラス一隊ノ統一既ニ然リ全航空部隊ノ團結得テ知ルヘキノ
 ミルノ一兵科ノ能力ヲ發揮シ得ル所以ノモ、ハ此兵科ノ全將
 校カ衷心其兵科ニ愛着シ相團結シテ其進歩榮達ニ盡瘁スルニ
 依ルモノニシテ單ニ進級問題ノ有形的要素ノミヲ以テ期シ得
 ヘキモノニアラス今ヤ航空兵ハ國軍ノ一大要素ニシテ國家ノ
 消長ニ關スル一大責務ヲ有スルニ至レリ是ニ於テカ凡百ノ手
 段ヲ講シ綏多ノ難障ヲ排擠シ以テ其責ヲ全フセシメサル可カ
 ラス現制ノ如ク航空兵ヲシテ各兵科ノ寄合世帯ヲシメシカ
 他日躋ヲ嚙ムモ遂ニ及ハサルヘシ

14811

第二 航空兵科獨立ニ伴フ施設
要領

一 人員ノ補充

現航空關係者ヲ凡テ航空兵科ノ人員ト爲シ又進級關係ヲ顧慮シ第一ノ理由ニ速ヘシ位置ヲ作ル

二 人員ノ補充

一 將校ノ補充ハ士官候補生ヲ以テスルノ外下士ヨリ進級セシム

二 下士ハ自隊補充ノ外他兵科ノモノヲ轉屬ス

三 平時編制中軍隊下士ノ人員ヲ増加ス

三 服制ノ制定

四 乘馬ノ廢止

五 士官候補生教育ノ爲士官學校ニ所要ノ施設ヲ爲ス

六 兵科獨立ニ伴フ諸條規ノ改正

七 偵察者ハ各兵科（航空兵科ヲ含ム）ノモノヲ充當シ各兵科部隊ニ在隊セシム

理由

一 人員補充法

(一) 平時

第一ニ述ヘシ如ク中少尉ノ定員ヲ百七十一名トセハ毎年ノ補充人員ハ十八名ニシテ之ヲ總中隊數ニ配當セハ一中隊ニ一一人ヲ入隊セシムレハ可ナリ

右人員補充ノ爲左ノ三方法中何レカヲ採用セサル可カラス

1 士官候補生トシテ航空隊ニ入隊セシム

2 士官學校本科在學中ノ士官候補生中ヨリ選抜シ卒業ト同時ニ航空隊ニ轉屬ス

3 各兵科新年次ノ尉官ヲ航空隊ニ轉屬ス

此等方法ノ利害ヲ擧クレルハ次ノ如シ

| | | |
|---|----------------|------------------|
| <p>區分士官候補生採用</p> | <p>他兵科尉官轉屬</p> | <p>士官學校卒業時轉屬</p> |
| <p>利</p> <p>一 航空技能練磨及維持歲月永シ</p> <p>二 將校團ノ觀念厚テク團結心強シ</p> <p>三 年次關係ハ進級上ノ秩序維持得</p> | <p>上記ト相反ス</p> | <p>上ニ段ノ中間ニ在リ</p> |
| <p>不利</p> <p>一 軍事學ノ素養ハ地上兵科ノ戰術其他ヲ知ルコト少シ</p> | | |

前表ヲ研究スルニ士官候補生入隊案ノ不利ヲ醫スルノ方案ヲ講スルヲ得ハ本案ヲ以テ最良トスルノミナラス當然兵科獨立ニ伴フ施設ノ一ナリトセサル可カラズ之レ技能維持ノ時曰永キ利益ノ外從來往々耳ニセル精神上ノ問題ニ基因スル航空不進歩ノ惡弊ヲ根絶シ人心ヲ統一シ以テ國軍航空界

ノ爲全カヲ傾注シ得ル無形上ノ一大利益ヲ獲得シ得ヘケレ
 ハナリ是ニ於テカ本案不利ニ関シ研究セサル可ラス
 從來ノ操縦將校ノ素質ニ照スニ其隊附期間少キモノアルニ
 拘ラス其戰術的任務ニ過誤ヲ生セシコト少ク又操縦下士ニ
 至リテハ殆ト戰術上ノ智識ヲ有セサルモ亦戰術智識缺陷ノ
 爲支障ヲ生シタルコト稀ナリ之ニ由テ之ヲ觀ルニ戰術上ノ
 判断ヲ要スルモノハ操縦者ノ一部ニシテ他部ハ偵察者ノ擔
 フ所ナリト謂フモ過言ニアラス之レ下士ヲモ操縦者トセル
 所以ナリ

果シテ然ラハ操縦者ニ如何ナル程度ノ戰術智能ヲ附與スヘ
 キヤノ問題ニ逢着ス空中ヨリ偵察スヘキ必要ナル條件ハ軍
 隊ノ行軍、戰鬥、宿營ニ關スル状態ヲ知悉スルコトニシテ
 若シ之ヲ詳細ニ研究セムント欲セハ日モ尚足ラサルヤ明ナ
 リ況ヤ各兵種獨特ノモノニ於テオヤ然レトモ一般ノ方式ハ

既ニ士官學校ニ於テ其梗概ヲ修得シアルヲ以テ操縦者ヲシ
 テ某期間他兵科ノ隊附、見學等ヲ爲サシムルノ外將校園教
 育、航空學校教育ニ俟ツトキハ之ヲ補フヲ得之レ隊長又ハ
 學校長ノ責任ナレハナリ、抑モ平時教育ハ戰時ノ爲ノ教育
 ナルヲ以テ當事者ハ常ニ心ヲ茲ニ存シ向テノ機會ヲ利用シ
 其能力ヲ發達セシムルコトヲモ期セサル可カラズ
 論者或ハ曰ク航空隊ニ在リテハ各級指揮官ハ壯年血氣ノ者
 ヲ必要トスト莫ニ然リ然リト雖モ之ヲ以テ直ニ航空兵科獨
 立ノ利益ノ理由ト爲スハ過早ナリ何トナレハ此事ハ特別ノ
 進級法ヲ講セサル以上平時ハ到底不可能ニシテ兵科ノ獨立
 スルト否トニ關セサルヤ明ナリ歐洲戰ニ於テ少壯ノ指揮官
 ヲ有セシハ全ク戰時ノ特別ニシテ本邦ト雖モ戰時斯ノ如ク
 ナラシメントセハ頗ル易々タルヘシ
 下士ニアリテハ之ヲ各其隊ニ於テ補充スヘキヤ又他兵科ヨ

リ轉屬セシムヘキマハ其利害ヲ考慮セサル可カラス
自隊補充ノ利トスル所左ノ如シ

- 一 下士ノ進級上秩序ヲ維持シ得且團結心強シ
 - 二 航空技能練磨ニ関シ豫備智識アリ
- 不 利

一 精密ナル体格検査ヲ爲スヲ要スルヲ以テ操縦要員ヲ充
スコト能ハサル場合アリ特ニ下士志願者少キ時ニ於テ然
リ

他兵科ヨリ補充スルモノハ利害相反ス

以上ノ利害ヲ觀ルニ自隊補充ノ不利タル要員ノ不足ハ必仕
義務制ノ下ニ入隊スル兵卒ニ之ヲ要求スルハ不可能ナルヲ
以テ之ヲ將校ノ如ク決定的ニ其一方ニ偏スル能ハス是ニ於
テカ自隊補充ヲ本則トシ其不足ハ他兵科ノモノヲ以テ補充
スルヲ良策ナリトス

(二) 戦時

戦時人員ノ補充法中特ニ考慮ヲ要スヘキハ操縦者ノ補充ト
 ス。抑モ航空隊ハ動員ニ當リ所要ノ操縦要員ヲ充足シ得ル如
 ク平時ヨリ之ヲ在隊セシムルヲ要ス之レ有事ノ秋ニ方リ極
 郷者ヲ充當スルカ如キハ全然不適當ナレハナリ
 今ニ倍動員ヲ基礎トシ現平時編制中三中隊大隊一箇ニ就テ
 動員當初必要ナル操縦者ヲ算出スルトキハ次ノ如シ

| 區分 | 戦時 | | 平時人員ノ配當割 | | | | 戦時操縦要員ノ不足 | 摘要 |
|--------|------|------|----------|-----|-----|-----|-----------|----|
| | 操縦要員 | 計 | 操縦機 | 操縦士 | 操縦機 | 操縦機 | | |
| 六中隊分 | 七二 | (五四) | | | | | | |
| 二材料廠分 | 四 | (四) | | | | | | |
| 補充隊 | 一〇 | (八) | | | | | | |
| 航空廠 | 二 | (三) | | | | | | |
| 定期補充要員 | 二 | (三) | | | | | | |
| | 八 | (四) | | | | | | |

教育期ヲ五月トシ第三月ヨリ第五月
 迄一月約15%ノ損耗率トス

二

偵察者補充

獨立ニ伴フ緊要事トス
 コトナク戦時要員ヲ補填スルヲ得ルヲ以テ之カ施設ハ兵科

右ニ方法ハ航空兵科獨立ニ必要ナル進級状態ニ影響ヲ及ス
 一 平時定員中下士ヲ増加ス
 二 下士志願者ニ在リテハ兵卒ノ階級ニ在ル時ヨリ操縦者
 ヲ選出養成ス

右不足人員六六(四二)ヲ如何ニシテ充足スルヤニ付今假
 リニ戦時要員ノ五分ノ一ヲ民間ニ得ルトセハ二三(一八)
 名ヲ得ヘシ故ニ之ヲ六六(四二)ヨリ減シ四三(二四)ノ
 充足方法ヲ講セントセハ其方法ハ左ノニ條件ニ歸セサル可
 カラス

| | | | | |
|----|---|------------|----------------------------|------------|
| 備考 | 計 | 一六 (九三) | 六二 二五 三三 五〇 二九 | 六六 (四二) |
| | 括弧ヲ附セサルモノハ平時三中队大隊中戦闘(十二機中队)隊トシテ核ヲ附スルモノハ同偵察(九機中队)隊トス | | | |

偵察將校ヲ平時航空隊ニ常置スヘキヤ否ヤニ関シテハ航空兵
 科獨立ノ要素タル進級問題ト消長ス偵察者ハ元來操縦者ノ如
 ク少壯ノ者ノミナラサルヘカラスト原則ヲ保守スルヲ要セサ
 ルモ某程度ヲ超ヘ又餘リニ階級高キ者ヲ充用スルハ人物經濟
 上適當ナラサルヲ以テ之ヲ平時航空隊ノ編制内ニ入ルコトハ
 進級問題ニ矛盾ヲ生スルヤ明ナリ抑モ偵察者ハ戰術上ノ判断
 カニ富ミ航空機上ノ行動ニ慣馴スレハ可ナルヲ以テ必スシモ
 常置ノ必要ナク最初ノ教育ト複習トニ依リ其能力ヲ保持シ得
 ヘシ故ニ偵察大隊ニ基幹タルヘキ最少限ノ要員ヲ置クノ外勤
 員時ニ於ケルモノ及所要ノ補充要員ヲ顧慮シ各兵科部隊ノモ
 ノヨリ選擇教育シ置クヲ以テ満足セサル可カラス

第三 機關科分立ノ可否

判決

機關科ノ分立ハ現勢ニ於テ不利ナリ

理由

機關科及航空本科ノ各階級ヲ通シ其要員カ進級狀態ニ關係ヲ及
 未ササルモノトセハ分立或ハ可ナランモ現狀ノ如キ所帶ヲ以テ
 シテハ各科内ニ於ケル人員融通ノ餘地ナキニ苦シムコトナキヲ
 保セス元來操縦ハ機關技術ヲ離レテ實施シ得ヘキモノニアラス
 從テ操縦者ハ少クモ機關ニ関スル一通ノ伎倆ヲ有セサルヘカラ
 ス又全盛期ヲ過キタル操縦者ハ爾後機關方面ニモ使用シ人員ノ
 融通ヲ圖ラサルヘカラサルヲ以テ若シ明確ニ航空本科ト機關科
 トヲ分立シ其間ニ於ケル轉換ヲ或ル規定ノ下ニ行ハンカスノ如
 キハ全然有名無實ナリ

論者或ハ曰ハン我海軍航空隊ニ於テハ操縦ト機関トヲ全然分離
 シ其教育補充職務等ヲ専門的ナラシメテ我陸軍航空隊ニ於テ
 モ此制度ヲ必要トセサルカト元來海軍ニハ機関科ナル特別ノ一
 科アリテ教育補充及進級等ヲ全ク本科ト別途ノ系統ニ據レリ航
 空隊ノ機関方面ニ至トシテ此機関科將校下士ヲ充用セルヲ以テ
 操縦ト機関トヲ分離シアルハ自然ナリ之ニ反シ我陸軍ニハ機関
 科ナルモノナク獨リ航空兵科ノミニ機関科ヲ設ケンカ前述ノ如
 キ有名無実ノ結果ニ陥ルノミナラス無形上ノ不利ヲモ伴フモノ
 トス故ニ此分科ヲ設クルコトナク恰モ現在技術方面ニアル砲工
 兵將校ニ於ケルカ如ク適任ノ者ニ特別ノ教育ヲ施シ勉メテ機関
 方面ニ於テ専門的任務ニ服セシムルヲ可トス加之機関科將校ハ
 一種ノ技術將校ナルヲ以テ陸軍技術將校令トモ差障リヲ生スル
 ニ至ルナキヤテ保シ難シ又之ヲ下士卒ニ見ルニ兵卒ノ大部ハ機
 関科ニ屬シ本科ニ屬スルモノハ其一部ナリ故ニ此兩科ノ兵卒ヲ

一隊内ニ混在セシムルコトハ既ニ一ノ隔壁ヲ設ケルニ等シク到
 底良結果ヲ期待スルコト能ハサルヤ必セリ
游校ニ於テモ
或然ランカ
 是ニ於テカ機
 関科分五ハ現勢ニ於テ所期ノ希望ヲ達成シ得サルモノト謂フモ
 過言ニアラサルナリ

閣

極秘

大臣 五

次官

軍航

陸軍

陸軍

陸軍

0960

三〇二

五月五日

陸軍

陸軍

航制第一九號

陸軍航空制度研究委員會

報告

陸軍航空

陸軍航空

決議事項報告、件

大正拾年五月四日

陸軍航空制度研究委員長 井上幾太郎

陸軍大臣 男爵 田中義一殿

當委員、於研究決議之事項別冊、通及報告候也

別冊

報告第三編 及同沿革 各貳部 (第一編)

報告及同沿革 (第二編) 兼各及同沿革 (第三編)

各壹部

陸軍部 陸軍部 陸軍部

右軍事課ニテ保管ス

陸軍

陸軍 陸軍局軍事課

1960

極秘

第一號

報告 第三號 拔萃

大正十年五月二日

陸軍航空制度研究委員長 井上幾太郎

報告第三號 拔萃

陸軍航空制度研究委員

第一 帝國陸軍戰時航空兵力

一、大正二十三年迄ニ野戰用及要地要塞守備用ヲ合シ左ノ戰時航空兵力ヲ整備スルヲ要ス

飛行隊

- 偵察 四十五中隊
- 戰鬥 五十二中隊
- 爆撃 十五中隊

計 百十二中隊 (千百六十四機)

氣球隊

三十中隊 (氣球三十個)

二、野戰軍ニ於ケル飛行中隊及氣球中隊配當ノ一例

三要地及要塞守備用航空部隊配置ノ一案

| | | | | | | | |
|-------|-------|----|------|------|------|---|---|
| 要 | 守備地 | 部隊 | 飛行中隊 | 飛行中隊 | 氣球中隊 | 摘 | 要 |
| | 東京、横濱 | 四 | | | | | |
| 大阪、神戸 | 二 | | | | | | |

一、本表ノ外名古屋、平壤ノ防衛亦三附
 近ノ飛行補充隊ヲ充ツ

| | | | | | | | | | | |
|-----------|--|---|---|---|---|---|---|---|------|---|
| 備考 | 飛行集團ハ集團の空中威力ヲ發揮スルノ必要アル方面ニ臨時配属ス 二、爆撃中隊約三分二ハ夜間爆撃ヲ、約三分一ハ晝間爆撃トス | 計 | 四 | 五 | 三 | 三 | 一 | 五 | 一 | 八 |
| 飛行集團(二) | | | | | 三 | | | 六 | | |
| 重砲兵旅團(七) | | | | | | | | | | |
| 騎兵集團(三) | | | | | | | | | | |
| 師團(三) | | | | | | | | | | |
| 軍司令部(八) | | | | | | | | | | |
| 方面軍司令部(三) | | | | | | | | | | |
| 部隊(我) | 配管區分 | 復 | 二 | 八 | 二 | 四 | 六 | 九 | 氣球中隊 | |

| 計 | 要塞 | | | | | | | | | | 地 | | | | |
|----|---|-----|-----|---------|----|----|----------|----|-----|----|---|-----|----|--------|-------|
| | 奄美大島 | 小笠原 | 澎湖島 | 基隆(鉛北ヲ) | 大連 | 津輕 | 鎮海湾(釜山ヲ) | 對馬 | 下ノ関 | 豊豫 | 由良 | 東京湾 | 義州 | 新潟石油産地 | 廣島、宇品 |
| 一九 | | | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | | 二 | | 二 | 一 | 一 | 一 | 一 |
| 一二 | 一 | 一 | | 一 | | 一 | 一 | 一 | 二 | 二 | 一 | 一 | | | |
| | <p>一、東京湾、鎮海湾及澎湖島ニ於ケル飛行中隊ハ海軍トノ協定ヨリ削除スルコトアリ</p> | | | | | | | | | | <p>二、枝光、大連、台北ノ防禦ニハ要塞中備飛行隊ヲ兼用ス</p> <p>三、釜山ノ防禦ニハ鎮海湾、宇備飛行隊ヲ兼用ス</p> | | | | |

第二 戰時航空部隊ノ編合

一、飛行隊

偵察

十一大隊ト十二獨立中隊

計四十五中隊

戰鬥

十一大隊ト十九獨立中隊

計五十二中隊

爆擊

五大隊

計十五中隊

合計

百十二中隊

二、氣球隊

三大隊ト二十一獨立中隊

計三十中隊

第三 平時航空團隊數並戰時補充部隊

一、平時航空團隊數

飛行隊

十四聯隊(各四中隊編成)

氣球隊

三聯隊(聯隊八三或八四中隊編成)

二、平時航空團隊ノ配置

| 考 備 | 計 | 台 | 朝 | 九 | 東 | 本 | 東 | 地 |
|--|----------|---|---|---|--------------|--------------|--------------|---------|
| | | 灣 | 鮮 | 州 | 北 | 州 | 京 | 方 區 分 |
| 一、飛行聯隊ハ各四中隊及一材料廠ヨリ成ル 二、混成聯隊ハ偵察ニ中隊戰闘ニ中隊ノ混成トス 三、氣球各聯隊ハ材料廠一ヲ附ス 四、一地又ハ附近ニ二個以上ノ聯隊ヲ集ルトキハ之ヲ合シテ航空旅團ヲ編成ス | 混成 一五 | | 一 | 一 | 混成 一 | 二 | 一 | 偵 察 |
| | 六 | 一 | 一 | 一 | | 二 | 一 | 戰 闘 |
| | 二 | | | | | 一 | 一 | 爆 撃 |
| | 三 | | | | (三中隊編成) 一 | (三中隊編成) 一 | (四中隊編成) 一 | 氣 球 聯 隊 |

三、戦時補充部隊

飛行隊ハ二倍動員ヲ、氣球隊ハ三倍動員ヲ行ヒ、別ニ各聯
隊ハ二中隊及材料廠ヨリ、成ル補充大隊ヲ編成ス從テ補充
部隊數次ノ如シ

| | | |
|----------|------|----|
| 飛行隊ニ對シテハ | 補充大隊 | 一四 |
| 氣球隊ニ對シテハ | 補充大隊 | 三 |

以上



第一號

報告第三號

- 第一、帝國陸軍戰時航空兵力
- 第二、戰時航空部隊ノ編合
- 第三、平時航空團隊數及戰時補充部隊數

大正十年五月二日

陸軍航空制度研究委員長 井上幾太郎

第一 帝國陸軍戰時航空兵力

帝國陸軍ハ曩ニ國際聯盟空軍委員ノ派遣ニ際シ議決セル戰時航空兵力（飛行隊約百七十五中隊及氣球隊約四十二中隊ヲ基礎トス）ヲ有スルコト必要ナリ而シテ該兵力ノ整備ヲ二時期ニ分テ第一時期即チ大正一十三年迄ニ充記兵力ヲ又再後殘餘兵力ヲ整備スルヲ要ス

左記

一、野戰用

| | | |
|---------------|-------|-------------|
| 飛行隊 | 偵察 | 四十五中隊 |
| 戰鬥 | 三十三中隊 | |
| 爆擊 | 十五中隊 | （内夜間爆擊隊十中隊） |
| 氣球隊 | | 十八中隊（十八個） |
| 計九十三中隊（九百三十機） | | |

二、要地及要塞守備用

飛行隊（戦闘）

気球隊

十九中隊（二百十八機）

十二中隊（十二個）

三、以上計

飛行隊

気球隊

百十二中隊（千百零四機）

三十中隊（三十個）

説明

一、 歐洲大戰ノ經驗ト將來列強航空軍備ノ趨勢トニ鑑ミ帝國陸軍ハ過般（大正九年八月）國際聯盟空軍委員ノ派遣ニ際シ參謀本部ニ於テ議決セル戰時航空兵力（飛行隊約百七十五中隊及気球隊約四十二中隊ヲ基礎トス）ヲ整備スルヲ必要トス然レトモ直ニ兵力ヲ整備スルハ本邦ノ現況竝國力ノ關係上困難ナルヲ以テ整備ヲ概ネニ時期ニ分テ先ツ帝國陸軍軍備充實時期

夕ル大正二十三年ヲ第一時期トシ前記兵力ヲ整備スルヲ以テ満足スルハ已ムヲ得サルヘシ

二、帝國陸軍ヲ其充實セル國軍總兵力即チ約四十二師團ヲ以テ假リニ三個ノ作戰方面ヲ通シ八軍ヲ編成シ之ニ騎兵集團一個重砲兵旅團七個ヲ加ヘ活動ヲ企圖スル場合ヲ想定シ之ニ配屬スヘキ最小限ノ偵察飛行隊ヲ計算セハ約四十五中隊(中隊ハ九機)ニシテ約四百機トナル(附表第一参照)

歐洲大戰ノ經驗ト列強ニ於ケル各種飛行機ノ按比率ノ大勢トヲ觀察スルニ野戰軍ニ有スヘキ戰鬪飛行機ハ全飛行機數ノ約42%ニシテ爆撃飛行機ハ全飛行機數ノ約12%ヲ要スルリ如シ東洋作戦地ニ於テハ建築物ノ性質上爆撃ノ效果ハ著大ニシテ就中夜間爆撃ニ於テ然リトス故ニ爆撃飛行機ノ比率ヲ15%ニ増加シ約其三分ノ一ヲ夜間爆撃飛行機トシ前記ノ偵察飛行機四百

機ヲ基礎トシテ戰闘飛行機及爆撃飛行機ノ數ヲ計算スレハ次
ノ如シ

野戰軍用總機數

約九百三十機

偵察飛行機

約四百機

戰闘飛行機

約三百九十機

爆撃飛行機

約百四十機(内約九十機ハ夜間爆撃機トス)

三、各種飛行隊一中隊ノ機數ハ中隊ノ指揮及運用上ノ便否竝中
隊ニ課スヘキ任務ヲ顧慮シテ定ムヘキモノトス歐洲大戰間列
強ノ中隊機數ヲ調査スルニ各國區々ニシテ且同一國ニ於テモ
戰役各期ニ亘リ著シク變遷ニ居レリ佛國ニ於テモ中隊機數最
モ少キ時期ハ六機、最モ多キ時期ハ十八機ニシテ最後ノ時期
ニ於テ戰闘中隊十八機其他ノ中隊十二機ヲ普通トセリ我陸軍
ノ豫想作戰地ノ如ク交通不便ナル地方ニ於テ飛行隊ニ相當ノ

移動性ヲ要求シ且器材ノ補給ヲ確實ナラシメンニハ偵察及爆
 撃中隊ハ各九機、戦闘中隊ハ十二機ヲ超過セシメサルヲ可ト
 ス此機数ヲ採用スルトキハ事故或ハ發動機手入等ノ爲約三分
 ノ一ハ一時使用不能トスルモ偵察一中隊ハ終始ニ機以上(概日
 三交代)ヲ在空中セシメ得ヘク爆撃一中隊ハ六機ノ一編隊ヲ又戰
 闘一中隊ハ同時ニ斥候群ニ或ハ三組ヲ差遣シ得ルナリ
 右ノ理由ニヨリ偵察及爆撃中隊ハ各九機、戦闘中隊ハ十二機
 トシテ前項ノ總機数ヨリ野戰軍用飛行隊ノ中隊数ヲ定ムルコ
 ト次ノ如シ

| 偵察 | 戰鬥 | 爆撃 | 計 |
|--------------|----------------|------------------------------------|----------------|
| 四十五中隊 (四百五機) | 三十三中隊 (三百九十六機) | 十五中隊 (百三十五機) | 九十三中隊 (九百三十六機) |
| | | <small>(内格闘爆撃八 十中隊九十機)</small> | |

此等飛行中隊ヲ各高等司令部、師團、騎兵集團、重砲兵旅團等ニ配當セハ概ネ附表第一ノ如シ
 戦闘及爆撃隊ノ一部ハ特ニ集團的空中威力ヲ發揮スルノ必要アル某方面ニ臨機使用ニ得ル如ク獨立集團トシテ編成ニ置クヲ可トス

四、以上ハ帝國陸軍總兵力(約四十二師團)カ活動上必要トスル最小限ノ飛行隊ヲ算出セルモノナリ今之ヲ做想敵國ノ航空兵力ト比較研究スルコト次ノ如シ
 帝國陸軍々補充實期ニ於ケル做想敵國ヲ做ニ現下ノ如ク米、露、支三國ナリトセンカ其極東ニ使用ニ得ヘキ戰時航空兵力ニ付テハ目下準據スヘキ的確ナル數字的基础ヲ得サルモ其國情、平時兵力、歐洲大戰ノ經歷茲飛行機飛達ノ豫想等ヨリ推定セハ我陸軍カ對抗スルヲ要スヘキ敵軍飛行機ハ大約千二、

三百機ニシテ其戰聞飛行機ハ四、五百機ナルヘシト概算シ得
 故ニ帝國陸軍ハ前記ノ航空兵力ヲ以テ略之ニ對戦スルヲ得ン
 五、野戰軍ニ於ケル氣球隊ハ各軍ニ一乃至二中隊、重砲兵各旅
 團ニ一中隊ノ割合ヲ以テシ合計十八中隊トス而シテ氣球一中
 隊ハ氣球一個ヲ有セシム

六、要地及要塞守備用ノ航空部隊ハ將來海軍トノ防空任務分擔
 協定ノ結果ニ依リテ更ニ研究ヲ必要トスヘキモ陸軍ニ於テ第
 一時期ニ整備スヘキ兵力ハ附表第二ノ如ク飛行機約十九中隊
 (二百二十八機)及氣球約十二中隊(十二個)トス而シテ掩護ノ
 爲ニハ主トシテ戰聞飛行隊ヲ使用シ監視及射擊觀測ノ爲ニハ
 氣球ヲ使用スルノ主旨ニ出ツルモノトス

七、戰役間前記ノ航空兵力ヲシテ常時活動セシメンカ爲ニハ補
 充隊、學校(操縦者、偵察者、射手、爆撃手等)ノ教育ニ任ス

及航空器材ノ補給機關並製造所等ノ完全ナル整備ヲ必要トス
之ニ関スル研究ハ別項ニ譲ル

附表第一

| 備考 | 計 | 飛行集團(一) | 重砲兵旅團(七) | 騎兵集團(三) | 師團(四) | 軍司令部(八) | 方面軍司令部(三) | 部隊(數) 航空區分 | | | |
|---|----|---------|----------|---------|-------|---------|-----------|------------|------|-----|------|
| | | | | | | | | 偵察飛行 | 戰中飛行 | 爆撃隊 | 氣球中隊 |
| 一、飛行集團ハ集團的空中威力ヲ發揮スルノ必要アル方面ニ臨時配屬ス 二、爆撃中隊約三分、二、夜間爆撃、約三分、一、昼間爆撃トス | 四五 | | 七 | 三 | 二五 | 八 | 二 | 偵察飛行 | 戰中飛行 | 爆撃隊 | 氣球中隊 |
| | 三三 | 三 | | | | 二四 | 六 | | | | |
| | 一五 | 六 | | | | | 九 | | | | |
| | 一八 | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

野戰軍ニ於テ飛行中隊及氣球中隊配當ノ一例

附表第二

| 要地 | | | | 要地 | | | | 守備地 | 要地及要塞守備用航空部隊配置ノ一案 |
|-----|----|----|----|----|--------|------|------|------|--|
| 東京湾 | 由良 | 豊後 | 下関 | 義州 | 新潟石油産地 | 廣島宇品 | 大阪神戸 | 東京横濱 | |
| 一 | 一 | 一 | 二 | 一 | 一 | 一 | 二 | 四 | 一、本表外名古屋、平壤、防禦ニ 附近ノ飛行補充隊ヲ充ツ 二、枝光、大連、台北ノ防禦ニ要塞守 備飛行隊ヲ兼用ス 三、釜山ノ防禦ニ鎮海灣守備飛行 隊ヲ兼用ス 一、東京湾、鎮海灣及鵬湖島ニ於 ケル飛行中隊ハ海軍トノ協定ニ ヲリ削除スルコトアリ |
| 一 | 一 | 一 | 二 | | | | | | |
| 橋 要 | | | | | | | | | |

| 計 | 塞 | | | | | | | |
|--------|------|-----|-----|--------|----|----|---------|----|
| | 奄美大島 | 小笠原 | 澎湖島 | 基隆(台北) | 大連 | 津輕 | 鎮海湾(釜山) | 對馬 |
| 一九 | | | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | |
| 一 二 | 一 | 一 | | 一 | | 一 | 一 | 一 |

戦時飛行隊及気球隊の編合及配属、敵軍の編制、作战方面、戦

説明

| 気球隊 | 飛行隊 | | | 部 隊 区 分 | |
|-----------------|-----------|----------------|----------------------------------|------------|----------|
| | 爆撃 | 戦闘 | 偵察 | 野 戰 | 軍 要地要塞守備 |
| 三 (九) | 五 (一五) | 一 一 (三三) | 一 一 (三三) | 大隊 (中隊) | 獨立中隊 |
| 九 | | | 一 二 | | |
| 一一 | | 一 九 | | 獨立中隊 | |
| 三 十一 獨立中隊 | 五 大隊 | 十 九 獨立中隊 | 十 一 獨立中隊 十 二 獨立中隊 | 計 | |

戦時飛行隊及気球隊ハ其使用及配属ノ関係ヲ顧慮シ概ネ左ノ如ク編合ス

第二 戦時航空部隊の編合

況等ニ依リ著シク變化スヘキモ一案トシテ示セハ次ノ如シ而シテ再後本案ヲ基礎トシテ諸般ノ施設及制度ヲ研究セリ

一、野戰軍

偵察隊ハ十一大隊(各大隊ハ三中隊ヨリ成ル)ト十二獨立中隊トニ編成シ三軍ニハ各ニ大隊ヲ五軍ニハ各一大隊ヲ配屬シ又方面軍司令部、騎兵集團、重砲兵旅團ニ所要ニ應シ獨立中隊ヲ配屬ス

戰闘及爆撃隊ハ全部ヲ三中隊ヨリ成ル大隊ニ編成シ其大部ハ所要ニ應シ方面軍司令部又ハ軍司令部ニ配屬ス又某方面ニ集團的空中威力ヲ發揮セシムルノ必要ナル場合ヲ顧慮シ戰闘ハ大隊爆撃ニ大隊ヲ以テ獨立ノ飛行集團ヲ編成シ必要ニ應シテ某方面ニ臨時配屬ス而シテ爆撃各大隊ハ通常夜間爆撃ニ中隊昼間爆撃ハ中隊トス

氣球隊ハ三大隊(各大隊ハ三中隊ヨリ成ル)ト九獨立中隊トニ編
 成シ三軍ニ各一大隊ヲ配屬シ軍内ノ師團及重砲兵旅團等ノ用
 ニ供シ其他ハ必要ニ應ジ獨立中隊ヲ配屬ス

二、要地及要塞守備

要地及要塞守備ノ爲配屬スヘキ飛行隊及氣球隊ハ總テ獨立中
 隊ヲ以テ之ニ充ツ但ニ個以上ノ中隊ヲ配屬スヘキ所ニ在リテ
 ハ當該飛行隊及氣球隊本部ヲ編成ス而シテ其編制ハ野戰軍ニ
 於ケル飛行大隊及氣球大隊本部ニ準ス

第三 平時航空團隊數並戰時補充部隊數

一、飛行隊ハ二倍動員、氣球隊ハ三倍動員ヲ可能ナリトシ平時
航空團隊數ヲ左ノ如クス

(1) 飛行隊 十四聯隊(各聯隊ハ四中隊及一材料廠ヨリ成ル)
内 譯

偵察 五聯隊

戦闘 六聯隊

混成 一聯隊(偵察及戦闘各ハ中隊ノ混成)

爆撃 二聯隊
(一聯隊ハ夜間爆撃及晝間爆撃各ハ中隊(一聯隊ハ夜間爆撃ハ中隊晝間爆撃ハ中隊ヨリ成ル)

(2) 氣球隊 三聯隊
(一聯隊ハ四中隊及一材料廠ヨリ成リ二聯隊ハ三中隊及一材料廠ヨリ成ル)

| 氣 球 隊 | 飛 行 隊 | | | | | 區 部 隊 |
|-------------|--------|----------------|---------|--------|--------|-------------|
| | 計 | 暴 撃 | 混 成 | 戦 闘 | 偵 察 | |
| 三 | 一 四 | 二 | 一 | 六 | 五 | 補充大隊本部 |
| 六 | 二 八 | 夜間 暴撃 二二 | 偵察 一 | 一 二 | 一 〇 | 補充中隊 |
| 三 | 一 四 | 二 | 一 | 六 | 五 | 材 料 廠 |

二、
 勤員復元ノ補充部隊ヲ編成ス
 (ハ) 一地又ハ附近ニ二箇以上ノ聯隊ヲ集ムルトキハ之ヲ合
 シテ航空旅團ヲ編成ス

説 明

一 飛行機操縦者ハ常時練習シアルニアラサレハ操縦上ノ伎倆
 低下スルト操縦者トシテ使用シ得ヘキ年月短カキト下士以下
 ニ在リテモ飛行隊ハ特種技術者特業者等ヨリ成リ器材ノ型種
 形式ノ進歩發遷實ニ日進月歩ノ状態ナルヲ以テ年度古キ設備
 後者ヲ戰時要員トシテ充當スルコト能ハサルト多數航空器材
 ノ製作補充ハ我工業界ノ現況ニ照シ容易ナラサル等ノ關係上
 飛行隊ノ二倍動員ハ困難ナルモノアルヘシト雖モ戰時所要ノ
 飛行隊ヲ平時ヨリ保持スルコトハ我國力ノ到底堪ヘ得サル所
 ニシテ平時航空兵力必要ノ最小限度ニモ達セサル我陸軍ニ在
 リテハ萬難ヲ排シテ戰時航空兵力ヲ大ナラシムルノ考察ニ合
 テサルヘカラス之カ為メニハ操縦者ハ陸軍ニ於テ比較的現役
 者ヲ多ク有スル如クスルト共ニ他方民間飛行家ヲ多數利用ス

ルノ策ヲ取り下士以下ハ比較的年次ノ新シキ者ヲ以テ充當シ得ル如ク編排シ器材ノ製作ニ関シテハ陸軍所管ノ工場ヲ戰時大ニ擴張シ得ル如ク施設シ且民間工場ヲ指導獎勵シテ戰時ノ轉移ヲ容易ナラシム且戰用航空器材及諸油類ノ貯藏ヲ行ヘハ二倍動員取テ不可能ナラス

氣球隊ハ飛行隊ニ比スレハ人員器材ノ補充容易ナルヲ以テ三倍動員ヲ實施スルコト可能ナリ

飛行隊ハ二倍動員、氣球隊ハ三倍動員ヲ行フモノトセハ戰時兵力ニ對スル平時中隊數ハ次ノ如シ

| | | |
|-----|----------|---------|
| 飛行隊 | 偵察 | 二十一中隊 |
| | 戰鬥 | 二十六中隊 |
| 氣球隊 | 夜間(晝間)中隊 | 八中隊 |
| | 晝間(夜間)中隊 | 十中隊 |
| | | 計 五十六中隊 |

右ノ中隊數ヲ以テ動員ヲ行ハハ偵察ハ中隊不足、晝間爆撃ハ中隊過剩ヲ生スルモ必要ニ際シテハ晝間爆撃中隊ヲ偵察中隊ニ轉換スルコト比較的容易ナリ

六、平時ニ於テ飛行機及氣球ト諸兵トノ共同動作ヲ演練セシムル爲ニハ各師團ニ航空隊一隊ヲ配屬スルヲ理想トスルモ統轄並施設就中飛行場設置ノ關係上頗ル困難トスル所ニシテ少數ノ箇所ニ稍多數ノ中隊ヲ集團スルコトハ已ハテ得サルヘシ飛行隊及氣球隊ニ於ケル教育、經理並兵器業務ハ他ノ一般部隊ニ比シテ著シク膨大ナルヲ以テ一團隊長ノ直接指揮下ニ集ムヘキ中隊數ハ四中隊以下トシ之ニハ材料廠ヲ附スルヲ要ス若シ飛行場ノ關係上更ニ多數ノ中隊ヲ一地ニ集メントスル場合ニハ數箇ノ團隊トシ其全般ヲ統轄スヘキハ司令部ヲ設クルヲ可トス然テ概不四中隊及一材料廠ヨリ成ル團隊ヲ聯隊トシ

二箇以上ノ聯隊ヲ合セル場合ハ之ヲ「旅團トスルコト歩、騎、砲兵ノ例ニ準ス

此主旨ニヨリ平時ニ於ケル聯隊ノ種類及数ヲ次ノ如ク定ム

(1) 飛行聯隊 計、十四聯隊(各聯隊ハ四中隊及材料廠ヲ成ル)

内 譯

偵察 五聯隊

戦闘 六聯隊

混成 一聯隊(偵察及戦闘各二中隊ノ混成)

爆撃 二聯隊

(2) 氣球聯隊 計、三聯隊

内 一聯隊(四中隊及材料廠)

二聯隊(三中隊及材料廠)

但爆撃隊ノ内一聯隊ハ夜間爆撃及晝間爆撃各二中隊

| 計 | 台 灣 | 朝 鮮 | 九 州 | 東 北 地 方 | 本 州 中 部 | 東 京 近 傍 | 配 置 區 | |
|--------|--------|--------|---------|------------------|------------------|------------------|-------------|-------------|
| | | | | | | | 地 方 | 飛 行 隊 |
| (混成) 一 | | | | (混成) 一 | 二 | 一 | 偵 察 | 飛 行 隊 |
| 六 | 一 | 一 | 一 | | 二 | 一 | 戰 闘 | 飛 行 隊 |
| 二 | | | | | | 一 | 爆 撃 | 飛 行 隊 |
| 三 | | | (三中隊) 一 | | (三中隊) 一 | (四中隊) 一 | | 氣 球 隊 |

一 聯隊ハ夜間爆撃三中隊及晝間爆撃一中隊ヨリ成ルモノトス
 二 以上ノ飛行十四聯隊及氣球三聯隊ヲ如何ニ配置スルニキヤハ
 飛行場ノ情況、戰時防空上飛行場ノ配置並他部隊トノ連合敵
 有等ヲ顧慮シテ定ムルヲ要ス今其一案ヲ示セハ次ノ如シ

四、飛行隊及氣球隊の動員ヲ行ヒシム後其動員部隊ニ對ス
ル兵員其他ノ補充ヲ確實ナラシムル為各縣隊ハ通常尤ノ補充
大隊ヲ編成ス

補充大隊本部

一

材料廠

一

補充中隊

二

(備考) 補充中隊ノ種類ハ偵察隊ニアリテハ偵察中隊、

戰鬥隊ニアリテハ戰鬥中隊、混成隊ニアリテハ

偵察、戰鬥各一中隊、爆撃隊ニアリテハ夜間爆撃及

晝間爆撃各一中隊、氣球隊ニアリテハ氣球中隊ト

ス

閣

陸軍大臣男爵田中義一殿

五月二十日

宣

陸軍部第二九號

陸軍部

陸

決議事項報告之件

陸軍部

大正拾年五月廿日 陸軍航空制度研究委員長井上幾太郎

陸軍大臣男爵田中義一殿

當委員ニ於テ研究決議セル事項別冊ノ通

及報告候也

別冊

報告第四號

貳部(第一編)

軍事

陸軍部

宣

陸軍部

1660

陸軍

極秘

報告第四號

三五部、内第壹號

- 第四、戰時ニ於ケル航空統轄機關
- 第五、戰時ニ於ケル航空器材補給機關
- 第六、戰時ニ於ケル航空教育機關

大正十年五月二十日

陸軍航空制度研究委員長 井上幾太郎

8660

第四、戦時ニ於ケル航空統轄機関

戦時ニ於ケル航空統轄概況

大本营

全軍航空ヲ統轄スルヲ機関ヲ設ケ其編制ハ
平時編制ノ確立ト相俟ツルヲ決定ス。

方面軍司令部

所要ニ應ジ航空部ヲ置クカ若ク其幕僚中ニ航空
部員ニ事柄管掌ヲ以テ所要ノ人員ヲ配屬ス。

一軍司令部

軍航空部ヲ置ク其編制ハ如シ。
長、少将(大佐)一、部員中(大佐)一、少佐(大尉)一、大尉一、大尉一、大尉一、下士以下ニ若干。

(四)内地航空概況

概シ平時編制ニ據リ所要ノ人員ヲ増加ス。

第四、戦時ニ於ケル航空統轄機関

其一、大本營ニ於ケル航空統轄機関

大本營ニハ全軍ノ航空ヲ統轄スヘキ機関ヲ設ク其編制ハ平時中
央航空統轄機関ノ組織及編制ノ研究ト相俟テ之ヲ決定ス

其二、方面軍司令部ニ於ケル航空機関

方面軍司令部ニハ所要ニ應ジ航空部ヲ置クカ若ハ其幕僚中ニ航
空ニ關スル事項ヲ管掌セシムルタメ所要ノ人員ヲ配屬スルモノ
トス

其三、軍司令部ニ於ケル航空機関

軍司令部ニハ軍航空部ヲ置ク其編成左ノ如シ

部長 少将(大佐)

中(少)佐

部員 少佐(大尉) 参謀兼

内地ニ在ル航空補充隊及航空諸學校等ノ統轄機關ハ平時編制ノ
 モノニ據リ要スレハ所要ノ増員ヲ行フモノトス

其四、内地ニ於ケル航空統轄機關

軍司令部ニハ氣象班及寫真班各一個ヲ附ス

下士及判任文官 若干

部員 器材 尉 尉 尉

大 尉 尉 尉

大 尉 尉

尉 尉 尉

尉 尉 尉

2660

第五、戦時ニ於ケル航空器材補給機関

6660

8660

戰時航空器材補給機關

一海地補給機關 航空廠(本廠及支廠)

二戰地補給機關

野戰航空本廠

(全軍一個
連隊七ヶ方兩軍各一個連隊)

野戰航空廠

各軍二個

三補給系統(附圖)如左

第五、戰時ニ於ケル航空器材補給機關

組織

戰時ニ於ケル航空器材(消耗品ヲ含ム)ノ補給機關ハ左ノ如ク組織スルヲ要ス

イ、内地補給機關

平時機關タル航空廠(航空本廠及同支廠)ヲ以テシ必要ニ應ジ之ヲ擴張ス

ロ、戰地補給機關

野戰航空本廠

全軍ノ爲ニ通常一個ヲ設クルモ遠隔地ニ於テ作戰スル方面軍ニハ別ニ之ヲ設クルコトアリ

戰地集積主地ニ設ケ修理工場、瓦斯工場、飛行機組立工場、倉庫及飛行場ヲ附屬ス

野戰航空廠

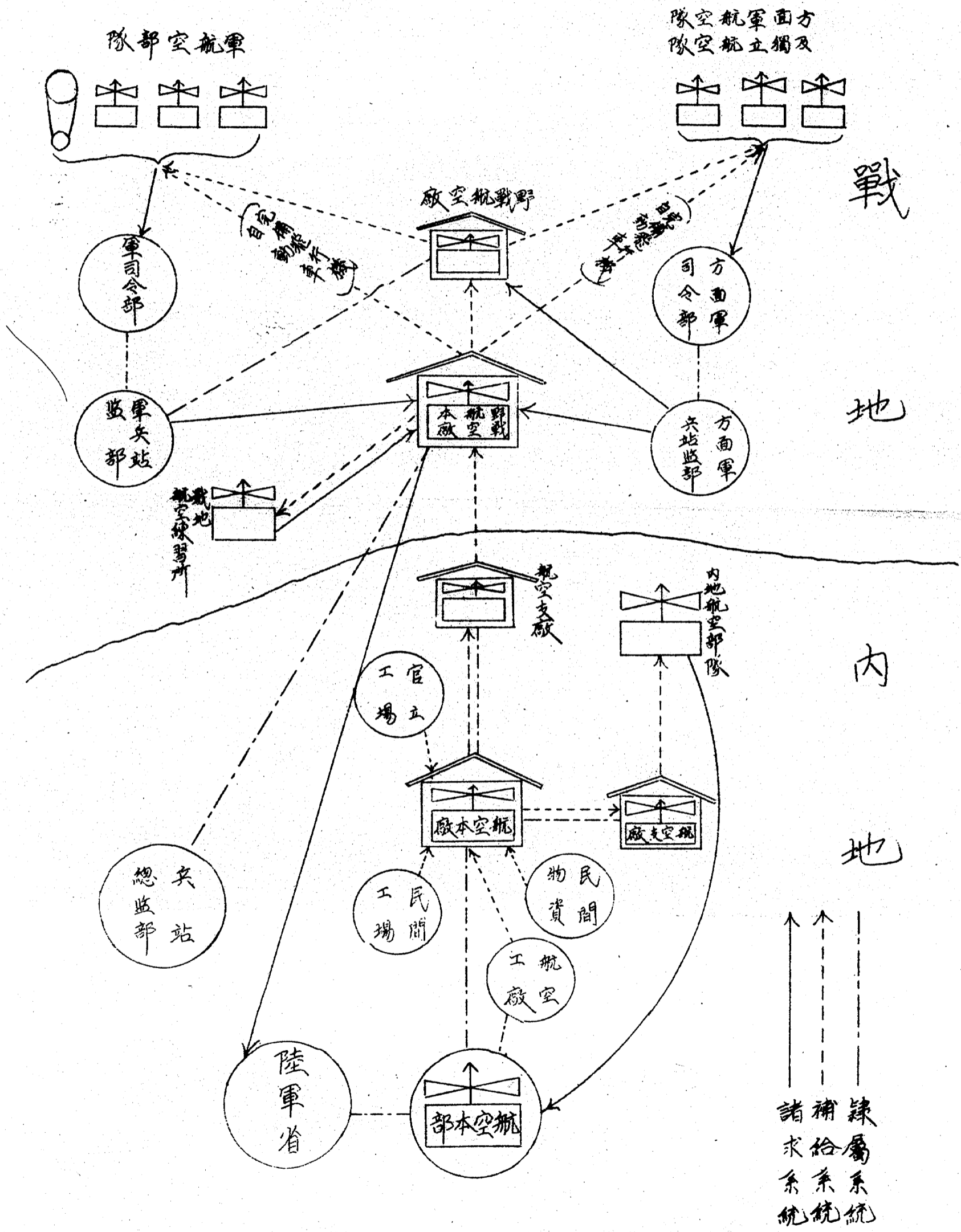
各軍毎ニ三個

二、 補給系統

各軍毎ニ一箇トシ主要ナル交通線路ニ近ク位置セシ
メ移動性ヲ有スル倉庫及小工場ヲ付ス

航空器材ノ補給系統ハ概テ附圖ノ如クス

戰時航空器材補給系統圖



1001

説明

一、航空器材ノ補給機關ハ特種ノ事情ナキ限り他ノ一般補給機
 関ト類似ノ組織トスルハ統制運用ノ上ニ於テ最モ考慮スヘキ
 條件ナルヘシ而シテ最近ニ於ケル歐米強國ノ戰時補給系統ノ
 實例ハ其名稱及細部ノ區分ニ於テ多少ノ差異アルモ内地ニ總
 轄的補給機關ヲ置キ更ニ戰線ニ至ル間ニ於テ大要ニ段ノ補給
 機關ヲ設置スルノ制度ハ各國殆ト一致スル所ナルヲ以テ本邦
 ニ於テモ前記ノ如キ制度ヲ採リ且其系統ヲ他ノ一般補給機關
 ト同一ニ律スルハ最モ適當ナルヘシ

二、内地ニ於ケル補給機關ハ平時機關タル航空廠(航空本廠及
 同支廠)ヲ以テスルモ戰時ニ於ケル補給器材ハ莫大ナルヲ以
 テ必要ニ應シ人員、建造物其他諸施設ノ増加ヲ要スヘシ而シ
 テ戰地追送器材及還送器材ノ集積發送等ニ関スル整理ハ集積

基地附近ノ支廠ヲ指定シ集積諸廠ニ等シキ任務ニ服セシムル
 ヲ有利トスヘク尚若干支廠ニハ修理工場ヲ設ケ内地各部隊ニ
 於テ實施シ能ハサル大修理ヲ擔任セシムルモノトス

三

補給用器材ヲ戰地集積主地ニ集積シ全軍ノ要求ニ應ジ補給
 ヲ迅速ナラシムルハ極メテ重要ナルヲ以テ作戰地境ノ後端船
 舶及鉄道ノ輻輳スル地矣ニ大ナル補給機關ヲ設ケ直接内地ト
 連絡シ追送及還送器材ヲ處理セシムルヲ有利トス是レ集積主
 地ニ野戰航空本廠ヲ設置スル所以ナリ

野戰航空本廠ハ戰地ニ於ケル唯一ノ中央補給機關ニシテ内地
 ヨリノ追送器材ノ整理及消耗品類ノ現地調辨ヲ掌リ常ニ前方
 ヨリスル補給請求ニ應ジ得ルノ準備ヲ爲シ且還送器材中修理
 可能品ハ内地機關ヲ煩ハスコトナク之ヲ復旧セシムル爲大ナ
 ル修理工場、飛行機組立工場及倉庫ヲ附屬スルヲ要ス殊ニ飛
 行機ノ如ク大梱包ヲ爲セル器材ノ追送及還送ニ對シ船積ヲ節

約スルニハ前記ノ西工場ヲ戰地ニ設置スルコト極メテ緊要ナリ

氣球隊ニ對スル瓦斯ノ補給量ハ頗ル多量ヲ要シ之カ爲瓦斯罐ヲ内地及戰地間ニ往復セシムルトキハ著大ナル瓦斯罐數ト船積トヲ要スルヲ以テ戰地ニ瓦斯製造工場ヲ設置スルヲ可トス完備飛行機及自動車ノ如ク自ラ移動性ヲ有スル器材ハ中間補給機關ヲ經由スルコトナク空中路又ハ陸路ニ依リ直接航空部隊ニ補給ス之カ爲野戰航空本廠ノ所在地ニ飛行場ヲ設ケ又要スレハ中間着陸場ヲ設ケテ若干ノ勤務員ヲ配置ス

補給機關ヲ多數適次ニ分設スルハ成ルヘク避クルヲ要スルモ戰線若シ擴大シ而モ交通不便ナル方面ニ在リテハ場合ニ依リ支廠ヲ分設スルコトアルヘシ

四、野戰航空本廠ハ其規模大ニシテ且固定的ナルカ故ニ野戰軍ノ前進ニ隨伴シ得ヘキ移動容易ナル中継補給機關ヲ必要トス

1887

之カ爲野戦航空廠ヲ各軍毎ニ設ケ軍ニ屬スル航空諸隊ノ補給
ニ任セシムルヲ便トスヘシ而シテ野戦航空廠ハ野戦航空本廠
ヨリ補給ヲ受ケ常ニ補給用器材消耗品ノ定数ヲ充備シ軍ノ需
用ニ支障ナカラシムルヲ要ス

1006

第六、戦時ニ於ケル航空教育機関

戦時航空教育機関

毎月養成三千
学生数

操縦学校

二〇〇

偵察学校

三五

射撃学校

二五 (機上銃)

爆撃学校

一五 (爆撃機)

氣球偵察学校

二〇

別々各方面軍毎に戦地航空練習所ヲ
設ケ内地教育を終リたる者ヲ戦地へ遣ハシ
應ズ如ク練成シ且多量ニ補充ニ使フコトナ

言

五

第六、戦時航空教育機関

一、飛行聯隊及氣球聯隊ノ補充隊ハ主トシテ地上勤務者ノ教育ヲ擔任セシメ空中勤務者ノ教育ハ平時施設ヲ擴張セル尤記諸學校ニ於テス

飛行機操縦術ニ関スル學校

飛行機偵察術ニ関スル學校

空中射撃ニ関スル學校

爆撃ニ関スル學校

氣球偵察ニ関スル學校

別ニ機關係養成ノ爲機関ニ関スル學校ヲ置ク

二、動員ト共ニ毎月概不尤記人員ヲ養成補充シ得ル如ク平時教育機関ノ施設ヲ擴張ス

飛行機操縦者

二百名

飛行機偵察将校

三十五名

飛行機上銃手

二十五名

爆撃者

十五名

氣球偵察将校

二十名

三、通常大ナル方面軍一個ノ戦地航空練習所ヲ設ケ内地教育ヲ終リタル飛行機操縦者及偵察将校ヲ戦地ノ實状ニ適應スル如ク練成シ且急速ナル補充ニ便ナラシム

説明

一、空中勤務者ノ教育ニハ特種ノ設備ト器材トヲ要スルヲ以テ
 平時ニ於テモ既ニ航空隊以外ニ特別ノ教育機関ヲ必要トセル
 如ク戦時ニ於テモ此等教育機関ニ所要ノ擴張ヲ加ヘ空中勤務
 者ヲ教育スルヲ要スヘキハ明ニシテ航空教育ノ能率ヲ十分ニ
 發揮スヘキ最良ノ手段タリ而シテ航空諸隊ノ補充隊ニ於テハ
 其平時施設ヲ特ニ増設スルコトナクシテ實施シ得ヘキ一般兵
 率及地上勤務特業者ノ教育ヲ擔任セシムルヲ可トス

二、内地ニ於ケル戦時教育法ハ概テ平時教育法ニ準シ其入校ハ
 月毎トシ修業期限八成ルヘク短縮シテ概テ尤ノ如ク定ム

(1) 飛行機操縦教育

驅逐操縦者

五乃至八ヶ月

(射撃教育ヲ含ム)

偵察操縦者

五乃至八ヶ月

(偵察及射撃教育ヲ含ム)

爆撃操縦者 五月至八月 (爆撃及射撃教育ヲ含ム)
但成績良好ナル者ハ逐次卒業セシム

(四) 飛行機偵察教育

偵察將校 約二ヶ月

偵察機操縦者 約一ヶ月

(八) 空中射撃教育

飛行機操縦者

飛行機偵察將校 約三週間

爆撃者

飛行機上銃手 約八週間

(二) 爆撃教育

爆撃者 約二ヶ月

爆撃操縦者 約一ヶ月

(六) 氣球偵察教育

気球偵察将校

約二ヶ月

三、地上勤務者ノ一部ヲル機関係将校、下士ハ航空部隊ニ於ケル器材ノ整備及補給ニ関スル業務ニ服シ特ニ任務重要ナルノミナラス戦時續出スヘキ新式器材ノ取扱ニ習熟セシムル爲所要ニ應ジ平時ニ於ケル機関術教育機関ヲ擴張シテ之ヲ教育ス

四、教育人員ハ戦時要員ニ對スル減耗ヲ補充スルニ十分ナル如ク定ムルヲ要ス空中勤務者ノ戦時要員ヲ計算スレハ七ノ如シ

| 種 別 | 區 分 | | | | 偵察隊 (要地要塞守備を含む) | 補 充 | 隊 員 其 他 | 計 |
|---------|--------|---------|--------|-----|--------------------|--------|------------------|------|
| | 飛行機操縦者 | 飛行機偵察将校 | 飛行機上銃手 | 爆撃者 | | | | |
| 偵察隊 | 四〇五 | 六二四 | 一八五 | 一三五 | 八八 | 一〇四 | 一八 | 二五〇 |
| 飛行機操縦者 | | | 一五 | | | | | 二五〇 |
| 飛行機偵察将校 | 二七〇 | | | | 四四 | | | 三〇 |
| 飛行機上銃手 | 一三五 | | 四〇 | | 二二 | | 六 | 二〇 |
| 爆撃者 | | | | 一三五 | | | 一六 | 一〇 |
| 気球偵察将校 | | | | 一二〇 | | | | 一二 |
| | | | | | | | | 一二 |
| | | | | | | | | 一四 |
| | | | | | | | | 一六 |
| | | | | | | | | 二二 |
| | | | | | | | | 三五 |
| | | | | | | | | 一六 |
| | | | | | | | | 二二 |
| | | | | | | | | 二五 |
| | | | | | | | | 三〇 |
| | | | | | | | | 三五 |
| | | | | | | | | 四〇 |
| | | | | | | | | 四五 |
| | | | | | | | | 五〇 |
| | | | | | | | | 五五 |
| | | | | | | | | 六〇 |
| | | | | | | | | 六五 |
| | | | | | | | | 七〇 |
| | | | | | | | | 七五 |
| | | | | | | | | 八〇 |
| | | | | | | | | 八五 |
| | | | | | | | | 九〇 |
| | | | | | | | | 九五 |
| | | | | | | | | 一〇〇 |
| | | | | | | | | 一〇五 |
| | | | | | | | | 一一〇 |
| | | | | | | | | 一一五 |
| | | | | | | | | 一二〇 |
| | | | | | | | | 一二五 |
| | | | | | | | | 一三〇 |
| | | | | | | | | 一三五 |
| | | | | | | | | 一四〇 |
| | | | | | | | | 一四五 |
| | | | | | | | | 一五〇 |
| | | | | | | | | 一五五 |
| | | | | | | | | 一六〇 |
| | | | | | | | | 一六五 |
| | | | | | | | | 一七〇 |
| | | | | | | | | 一七五 |
| | | | | | | | | 一八〇 |
| | | | | | | | | 一八五 |
| | | | | | | | | 一九〇 |
| | | | | | | | | 一九五 |
| | | | | | | | | 二〇〇 |
| | | | | | | | | 二〇五 |
| | | | | | | | | 二一〇 |
| | | | | | | | | 二一五 |
| | | | | | | | | 二二〇 |
| | | | | | | | | 二二五 |
| | | | | | | | | 二三〇 |
| | | | | | | | | 二三五 |
| | | | | | | | | 二四〇 |
| | | | | | | | | 二四五 |
| | | | | | | | | 二五〇 |
| | | | | | | | | 二五五 |
| | | | | | | | | 二六〇 |
| | | | | | | | | 二六五 |
| | | | | | | | | 二七〇 |
| | | | | | | | | 二七五 |
| | | | | | | | | 二八〇 |
| | | | | | | | | 二八五 |
| | | | | | | | | 二九〇 |
| | | | | | | | | 二九五 |
| | | | | | | | | 三〇〇 |
| | | | | | | | | 三〇五 |
| | | | | | | | | 三一〇 |
| | | | | | | | | 三一五 |
| | | | | | | | | 三二〇 |
| | | | | | | | | 三二五 |
| | | | | | | | | 三三〇 |
| | | | | | | | | 三三五 |
| | | | | | | | | 三四〇 |
| | | | | | | | | 三四五 |
| | | | | | | | | 三五〇 |
| | | | | | | | | 三五五 |
| | | | | | | | | 三六〇 |
| | | | | | | | | 三六五 |
| | | | | | | | | 三七〇 |
| | | | | | | | | 三七五 |
| | | | | | | | | 三八〇 |
| | | | | | | | | 三八五 |
| | | | | | | | | 三九〇 |
| | | | | | | | | 三九五 |
| | | | | | | | | 四〇〇 |
| | | | | | | | | 四〇五 |
| | | | | | | | | 四一〇 |
| | | | | | | | | 四一五 |
| | | | | | | | | 四二〇 |
| | | | | | | | | 四二五 |
| | | | | | | | | 四三〇 |
| | | | | | | | | 四三五 |
| | | | | | | | | 四四〇 |
| | | | | | | | | 四四五 |
| | | | | | | | | 四五〇 |
| | | | | | | | | 四五五 |
| | | | | | | | | 四六〇 |
| | | | | | | | | 四六五 |
| | | | | | | | | 四七〇 |
| | | | | | | | | 四七五 |
| | | | | | | | | 四八〇 |
| | | | | | | | | 四八五 |
| | | | | | | | | 四九〇 |
| | | | | | | | | 四九五 |
| | | | | | | | | 五〇〇 |
| | | | | | | | | 五〇五 |
| | | | | | | | | 五一〇 |
| | | | | | | | | 五一五 |
| | | | | | | | | 五二〇 |
| | | | | | | | | 五二五 |
| | | | | | | | | 五三〇 |
| | | | | | | | | 五三五 |
| | | | | | | | | 五四〇 |
| | | | | | | | | 五四五 |
| | | | | | | | | 五五〇 |
| | | | | | | | | 五五五 |
| | | | | | | | | 五六〇 |
| | | | | | | | | 五六五 |
| | | | | | | | | 五七〇 |
| | | | | | | | | 五七五 |
| | | | | | | | | 五八〇 |
| | | | | | | | | 五八五 |
| | | | | | | | | 五九〇 |
| | | | | | | | | 五九五 |
| | | | | | | | | 六〇〇 |
| | | | | | | | | 六〇五 |
| | | | | | | | | 六一〇 |
| | | | | | | | | 六一五 |
| | | | | | | | | 六二〇 |
| | | | | | | | | 六二五 |
| | | | | | | | | 六三〇 |
| | | | | | | | | 六三五 |
| | | | | | | | | 六四〇 |
| | | | | | | | | 六四五 |
| | | | | | | | | 六五〇 |
| | | | | | | | | 六五五 |
| | | | | | | | | 六六〇 |
| | | | | | | | | 六六五 |
| | | | | | | | | 六七〇 |
| | | | | | | | | 六七五 |
| | | | | | | | | 六八〇 |
| | | | | | | | | 六八五 |
| | | | | | | | | 六九〇 |
| | | | | | | | | 六九五 |
| | | | | | | | | 七〇〇 |
| | | | | | | | | 七〇五 |
| | | | | | | | | 七一〇 |
| | | | | | | | | 七一五 |
| | | | | | | | | 七二〇 |
| | | | | | | | | 七二五 |
| | | | | | | | | 七三〇 |
| | | | | | | | | 七三五 |
| | | | | | | | | 七四〇 |
| | | | | | | | | 七四五 |
| | | | | | | | | 七五〇 |
| | | | | | | | | 七五五 |
| | | | | | | | | 七六〇 |
| | | | | | | | | 七六五 |
| | | | | | | | | 七七〇 |
| | | | | | | | | 七七五 |
| | | | | | | | | 七八〇 |
| | | | | | | | | 七八五 |
| | | | | | | | | 七九〇 |
| | | | | | | | | 七九五 |
| | | | | | | | | 八〇〇 |
| | | | | | | | | 八〇五 |
| | | | | | | | | 八一〇 |
| | | | | | | | | 八一五 |
| | | | | | | | | 八二〇 |
| | | | | | | | | 八二五 |
| | | | | | | | | 八三〇 |
| | | | | | | | | 八三五 |
| | | | | | | | | 八四〇 |
| | | | | | | | | 八四五 |
| | | | | | | | | 八五〇 |
| | | | | | | | | 八五五 |
| | | | | | | | | 八六〇 |
| | | | | | | | | 八六五 |
| | | | | | | | | 八七〇 |
| | | | | | | | | 八七五 |
| | | | | | | | | 八八〇 |
| | | | | | | | | 八八五 |
| | | | | | | | | 八九〇 |
| | | | | | | | | 八九五 |
| | | | | | | | | 九〇〇 |
| | | | | | | | | 九〇五 |
| | | | | | | | | 九一〇 |
| | | | | | | | | 九一五 |
| | | | | | | | | 九二〇 |
| | | | | | | | | 九二五 |
| | | | | | | | | 九三〇 |
| | | | | | | | | 九三五 |
| | | | | | | | | 九四〇 |
| | | | | | | | | 九四五 |
| | | | | | | | | 九五〇 |
| | | | | | | | | 九五五 |
| | | | | | | | | 九六〇 |
| | | | | | | | | 九六五 |
| | | | | | | | | 九七〇 |
| | | | | | | | | 九七五 |
| | | | | | | | | 九八〇 |
| | | | | | | | | 九八五 |
| | | | | | | | | 九九〇 |
| | | | | | | | | 九九五 |
| | | | | | | | | 一〇〇〇 |

戰時ニ於ケル空中勤務員ノ減耗ニ就テハ明確ナル標準ナシモ
 歐洲大戰ニ於ケルハ、ニノ統計其他諸種ノ報告ヲ綜合スルニ
 戰地ニ於ケル減耗比率ハ戰闘行為、疾病及疲労等ヲ合シ毎月
 平均老ノ標準ニ近接スルカ如シ

飛行機操縦者 戰地總員ニ對スル 一四%

飛行機偵察將校 同 一〇%

飛行機上銃手 同 一〇%

爆撃者 同 一〇%

氣球偵察將校 同 一五%

又内地勤務ニ於ケル事故、疾病及疲労等ニ依リ減耗比率ハ各
 種ノ特業ヲ通シ毎月平均ニ%ヲ標準トスルカ如シ
 戰地及内地ニ於ケル減耗ニ對シ前述ノ比率ヲ採用シ毎月補充
 スルヲ要スル人員ヲ計算シ且之ニ教育中ノ減耗約一割ヲ見込
 ムトキハ教育ノ爲毎月召集スヘキ人員ハ老ノ如シ

飛行機操縦者

二百名

飛行機偵察将校

三十五名

飛行機上銃手

二十五名

爆撃者

十五名

氣球偵察将校

二十名

五、戦役間航空機ニ関スル技術及戰術ノ進歩變遷ハ極メテ急激

ナルモノトス而シテ此變遷ヲ直ニ内地教育上ニ及ホスコトハ
航空教育ノ如ク特別ノ器材ト設備トヲ要スルモノニアリテハ
頗ル困難トスル所ナリ故ニ航空勤務者ハ先ツ戰場ノ後方ニ於
テ實戰ニ適應スル如ク練成シタル後戰列部隊ノ補充ニ充用ス
ルヲ要ス

又戰列隊ニ於ケル破損若ハ老衰ノ航空機ハ成ルヘク戰地ニ於
テ補修復活セシメ之ヲ前記ノ教育ニ利用スルハ輸送機關ノ節
約上多大ノ利益アリ且戰列部隊勤務者ニ對シ新式器材ニ関ス

ル教習ヲ行フ爲ニモ戦地ニ教育機関ヲ有スルコト必要ナリト
 ス而シテ茲ニ若干ノ豫備員(一會戰ニ於ケル豫想減耗員)ヲ收容シ置
 シトキハ急速ナル補充ニ應シ得ルノ使ヲ有ス故ニ教育及補充
 ノ両方面ノ必要ニ依リ戦地ニ航空練習所ヲ設クルヲ可トス
 戦地航空練習所ハ大ナル方面軍ニ對シ一箇ヲ成ルハク戦後初
 期ヨリ設置シ所要ニ應シ逐次擴張シ操縦、偵察、射撃、爆撃
 等ノ分科ヲ置クモノトス

六、戦時教育機関ノ編制ニ関シテハ平時教育機関ノ組織及編
 制決定後ニ於テ研究ス



報告第四號

三五部、内第貳號

- 第四、戰時ニ於ケル航空統轄機關
- 第五、戰時ニ於ケル航空器材補給機關
- 第六、戰時ニ於ケル航空教育機關

大正十年五月十日

陸軍航空制度研究委員會長 井上幾太郎

1017

第四、戦時ニ於ケル航空統轄機関

第四、戦時ニ於ケル航空統轄機関

其一、大本營ニ於ケル航空統轄機関

大本營ニハ全軍ノ航空ヲ統轄スヘキ機関ヲ設ク其編制ハ平時中
中央航空統轄機関ノ組織及編制ノ研究ト相俟テ之ヲ決定ス

其二、方面軍司令官ニ於ケル航空機関

方面軍司令官ニハ所要ニ應ジ航空部ヲ置クカ若ハ其幕僚中ニ航
空ニ関スル事項ヲ管掌セシムルタメ所要ノ人員ヲ配屬スルモノ
トス

其三、軍司令部ニ於ケル航空機関

軍司令部ニハ軍航空部ヲ置ク其編成左ノ如シ

部長 少将(大佐) 一

中(少佐) 一

部員 少佐(大尉) 参謀兼 一

部員

幕府

大尉 大尉

下士及判任文官

若干

軍司令部ニハ氣象班及寫真班各一個ヲ附ス

其四、内地ニ於ケル航空統轄機關

内地ニ在ル航空補充隊及航空講習隊等ノ統轄機關ハ平時編制ノ
モノニ據リ要スレハ所要ノ増員ヲ行フモノトス

1020

第五、戦時ニ於ケル航空器材補給機関

第五、戰時ニ於ケル航空器材補給機關

一、組織

戰時ニ於ケル航空器材（消耗品ヲ含ム）ノ補給機關ハ左ノ如ク組織スルヲ要ス

イ、内地補給機關

平時機關タル航空廠（航空本廠及同支廠）ヲ以テシ必要ニ應ジ之ヲ擴張ス

ロ、戰地補給機關

野戰航空本廠

全軍ノ爲ニ通常一個ヲ設クレモ遠隔地ニ於テ作戦スル方則軍ニ別ニ之ヲ設クレコトアリ

戰地累積主地ニ設ケ修理工場、瓦葺工場、飛行機組立工場、倉庫及飛行場ヲ附屬ス

野戰航空廠

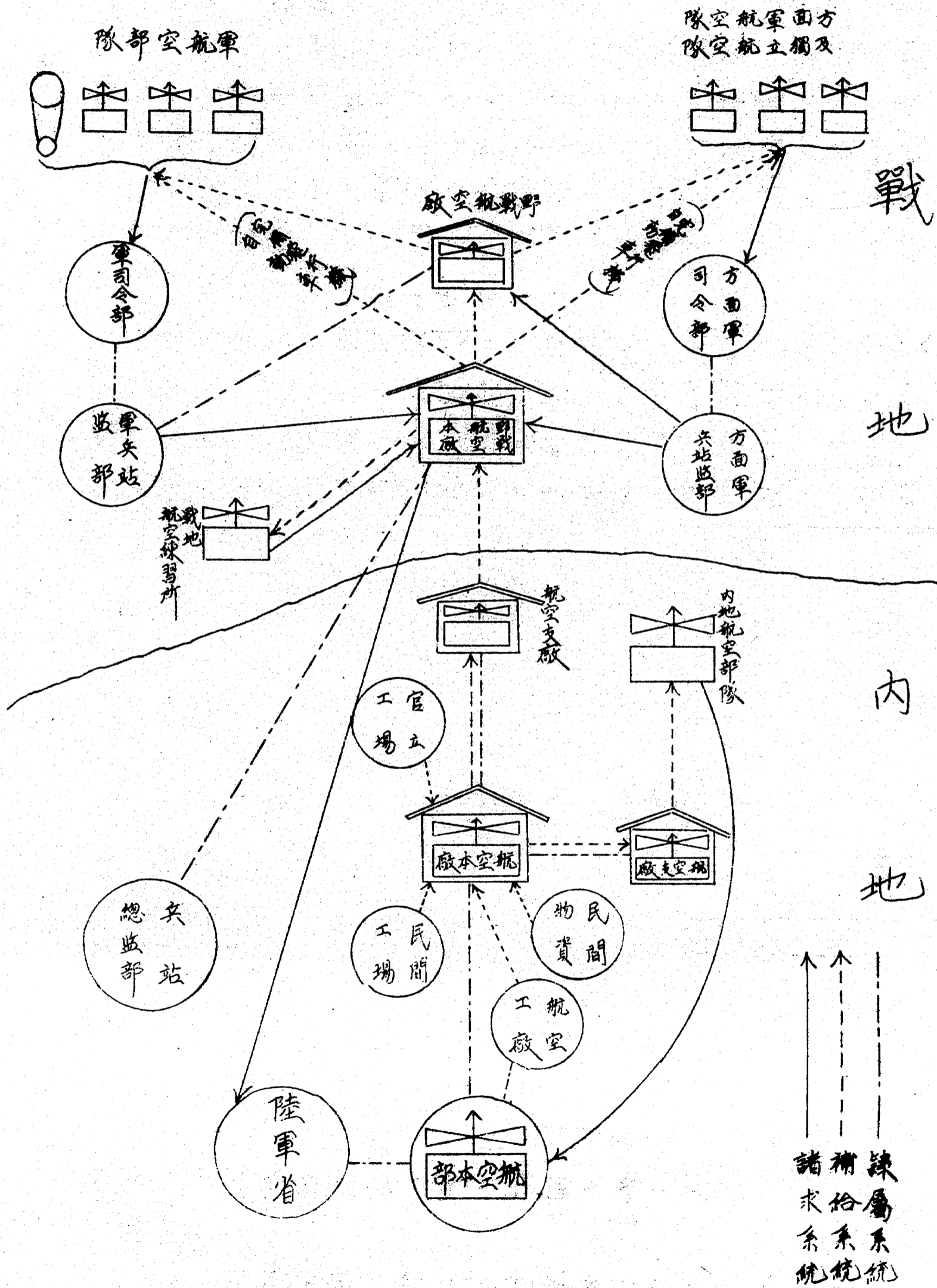
各軍毎ニ一個

二、補給系統

各軍毎ニ一箇トシ主要ナル交通線路・道ヲ位置セシ
メ移動性ヲ有スル倉庫及小工場ヲ付ス

航空器材ノ補給系統ハ概カ所圖ト如クス

戰時航空器材補給系統圖



説明

- 一、航空器材ノ補給機關ハ特種ノ事情ナキ限リ他ノ一般補給機
関ト類似ノ組織トスルハ統制運用ノ上ニ於テ最モ考慮スヘキ
條件ナルヘシ而シテ最近ニ於ケル歐米強國ノ戰時補給系統ノ
實例ハ其名稱及細部ノ區分ニ於テ多少ノ差異アルモ内地ニ總
轄的補給機關ヲ置キ更ニ戰線ニ至ル間ニ於テ大要ニ段ノ補給
機關ヲ設置スルノ制度ハ各國殆ト一致スル所ナルヲ以テ本邦
ニ於テモ前記ノ如キ制度ヲ採リ且其系統ヲ他ノ一般補給機關
ト同一ニ律スルハ最モ適當ナルヘシ
- 二、内地ニ於ケル補給機關ハ平時機關タル航空廠(航空本廠及
同支廠)ヲ以テスルモ戰時ニ於ケル補給器材ハ莫大ナルヲ以
テ必要ニ應ジ人員、建造物其他諸施設ノ増加ヲ要スヘシ而シ
テ戰地追送器材及還送器材ノ集積發送等ニ関スル整理ハ集積

基地附近ノ支廠ヲ指定シ集積諸廠ニ等シキ任務ニ服セシムル
 ヲ有利トスヘク尚若干支廠ニハ修理工場ヲ設ケ内地各部隊ニ
 於テ實施シ能ハサル大修理ヲ擔任セシムルモノトス

三、補給用器材ヲ戰地集積主地ニ集積シ全軍ノ要求ニ應ジ補給
 ヲ迅速ナラシムルハ極メテ重要ナルヲ以テ作戰地境ノ後端船
 舶及鉄道ノ輻輳スル地矣ニ大ナル補給機關ヲ設ケ直接内地ト
 連絡シ追送及還送器材ヲ處理セシムルヲ有利トス是レ集積主
 地ニ野戰航空本廠ヲ設置スル所以ナリ

野戰航空本廠ハ戰地ニ於ケル唯一ノ中央補給機關ニシテ内地
 ヨリノ追送器材ノ整理及消耗品類ノ現地調辨ヲ掌リ常ニ前方
 ヨリスル補給請求ニ應ジ得ルノ準備ヲ爲シ且還送器材中修理
 可能品ハ内地機關ヲ煩ハスコトナク之ヲ復旧セシムル爲メ大ナ
 ル修理工場、飛行機組立工場及倉庫ヲ附屬スルヲ要ス殊ニ飛
 行機ノ如ク大梱包ヲ爲セル器材ノ追送及還送ニ對シ船積ヲ節

約スルニハ前記ノ西工場ヲ戦地ニ設置スルコト極メテ緊要ナリ

気球隊ニ對スル瓦斯ノ補給量ハ頗ル多量ヲ要シ之カ爲瓦斯罐ヲ内地及戦地間ニ往復セシムルトキハ著大ナル瓦斯罐数ト船積トヲ要スルヲ以テ戦地ニ瓦斯製造工場ヲ設置スルヲ可トス、完備飛行機及自動車ノ如ク自ラ移動性ヲ有スル器材ハ中間補給機關ヲ經由スルコトナク空中路又ハ陸路ニ依リ直接航空部隊ニ補給ス之カ爲野戦航空本廠ノ所在地ニ飛行場ヲ設ケ又要スレハ中間着陸場ヲ設ケテ若干ノ勤務員ヲ配置ス

補給機關ヲ多數連続ニ分設スルハ成ルヘク避クルヲ要スルモ戦線若シ擴大シ而モ交通不便ナル方面ニ在リテハ場合ニ依リ支廠ヲ分設スルコトアルヘシ

四、野戦航空本廠ハ其規模大ニシテ且固定的ナルカ故ニ野戦軍ノ前進ニ随伴シ得ヘキ移動容易ナル中継補給機關ヲ必要トス

之ヲ爲野戰航空廠ヲ各軍毎ニ設ケ軍ニ屬スル航空諸隊ノ補給
ニ任セシムルヲ便トスヘシ而シテ野戰航空廠ハ野戰航空本廠
ヨリ補給ヲ受ケ常ニ補給用器材消耗品ノ定數ヲ充備シ軍ノ需
用ニ支障ナカラシムルヲ要ス

1028

第六、戦時ニ於ケル航空教育機関

第六、戰時航空教育機關

一、飛行聯隊及氣球聯隊ノ補充隊ハ主トシテ地上勤務者ノ教育ヲ擔任セシメ空中勤務者ノ教育ハ平時施設ヲ擴張セル尤記諸學校ニ於テス

飛行機操縦術ニ関スル學校

飛行機偵察術ニ関スル學校

空中射撃ニ関スル學校

爆撃ニ関スル學校

氣球偵察ニ関スル學校

別ニ機關係養成ノ爲機關係ニ関スル學校ヲ置ク

二、動員ト共ニ毎月概テ尤記人員ヲ養成補充シ得ル如ク平時教育機關ノ施設ヲ擴張ス

飛行機操縦者

二百名

飛行機偵察将校

三十五名

飛行機上銃手

二十五名

爆撃者

十五名

気球偵察将校

二十名

三、通常大ナル方面軍ニ一個ノ戦地航空練習所ヲ設ケ内地教育ヲ終リタル飛行機操縦者及偵察将校ヲ戦地ノ實状ニ適應スル如ク練成シ且急速ナル補充ニ便ナラシム

説明

一、空中勤務者ノ教育ニハ特種ノ設備ト器材トヲ要スルヲ以テ
 平時ニ於テモ既ニ航空隊以外ニ特別ノ教育機関ヲ必要トセル
 如ク戦時ニ於テモ此等教育機関ニ所要ノ擴張ヲ加ヘ空中勤務
 者ヲ教育スルヲ要スヘキハ明ニシテ航空教育ノ能率ヲ十分ニ
 發揮スヘキ最良ノ手段タリ而シテ航空諸隊ノ補充隊ニ於テハ
 其平時施設ヲ特ニ増設スルコトナクシテ實施シ得ヘキ一般兵
 卒及地上勤務特業者ノ教育ヲ擔任セシムルヲ可トス

二、内地ニ於ケル戦時教育法ハ概シ平時教育法ニ準シ其入校ハ
 月毎トシ修業期限ハ成ルヘク短縮シテ概シ尤ノ如ク定ム

(1) 飛行機操縦教育

驅逐操縦者 五乃至八ヶ月 (射撃教育ヲ含ム)

偵察操縦者 五乃至八ヶ月 (偵察及射撃教育ヲ含ム)

爆撃操縦者 五月至八月 (爆撃及射撃教育も含)
但成績良好ナル者ハ速次卒業セシム

(四) 飛行機偵察教育

偵察將校 約二ヶ月

偵察機操縦者 約一ヶ月

(ハ) 空中射撃教育

飛行機操縦者

飛行機偵察將校 約三週間

爆撃者

飛行機上銃手 約八週間

(ニ) 爆撃教育

爆撃者 約二ヶ月

爆撃操縦者 約一ヶ月

(ホ) 氣球偵察教育

氣球偵察將校 約二ヶ月

三、地上勤務者ノ一部ヲル機関係將校、下士ハ航空部隊ニ於ケル器材ノ整備及補給ニ関スル業務ニ服シ特ニ任務重要ナルノミナラス戰時續出スヘキ新式器材ノ取扱ニ習熟セシムル爲所要ニ應シ平時ニ於ケル機関術教育機関ヲ擴張シテ之ヲ教育ス

四、教育人員ハ戰時要員ニ對スル減耗ヲ補充スルニ十分ナル如ク定ムルヲ要ス空中勤務者ノ戰時要員ヲ計算スレハ左ノ如シ

| 種 別 | 區 分 | 戰隊(要地要塞守備ヲ含ム) | | | | | | | | | |
|---------|--------|---------------|-----|-----|-----|--------|-----|-----|-----|-----|------|
| | | 偵察隊 | 戰鬥隊 | 爆撃隊 | 氣球隊 | 補 充 | 偵察隊 | 戰鬥隊 | 爆撃隊 | 氣球隊 | |
| 飛行機操縦者 | | 四〇五 | 六二四 | 一八五 | | 八八 | 一〇四 | 一八 | | 二五〇 | 一六七四 |
| 飛行機偵察將校 | | 二七〇 | | 一五 | | 四四 | | | | 三〇 | 三五九 |
| 飛行機上銃手 | | 一三五 | | 四〇 | | 二二 | | 六 | | 二〇 | 二二三 |
| 爆撃者 | | | | 一三五 | | | | 一六 | | 一〇 | 一六一 |
| 氣球偵察將校 | | | | | 一二〇 | | | | 一二 | 一一 | 一四四 |
| | | 隊 | | | | | | | | 學共 | 計 |

戦時ニ於ケル空中勤務員ノ減耗ニ就テハ明確ナル標準ナキモ
 歐洲大戦ニ於ケルハ、二ノ統計其他諸種ノ報告ヲ綜合スルニ
 戦地ニ於ケル減耗比率ハ戦開行爲、疾病及疲労等ヲ合シ毎月
 平均老ノ標準ニ近接セルカ如シ

飛行機操縦者

戦地總員ニ對スル

一四%

飛行機偵察將校

同

一〇%

飛行機上銃手

同

一〇%

爆撃者

同

一〇%

氣球偵察將校

同

一五%

又内地勤務ニ於ケル事故、疾病及疲労等ニ依ル減耗比率ハ各
 種ノ特業ヲ通シ毎月平均ニ%ヲ標準トスルカ如シ
 戦地及内地ニ於ケル減耗ニ對シ前述ノ比率ヲ採用シ毎月補充
 スルヲ要スル人員ヲ計算シ且之ニ教育中ノ減耗約一割ヲ見込
 ムトキハ教育ノ爲毎月召集スヘキ人員ハ老ノ如シ

飛行機操縦者

二百名

飛行機偵察將校

三十五名

飛行機上銃手

二十五名

爆撃者

十五名

氣球偵察將校

二十名

五、

戦後間航空機ニ関スル技術及戰術ノ進歩變遷ハ極メテ急激ナルモノトス而シテ此變遷ヲ直ニ内地教育上ニ及ホスコトハ航空教育ノ如ク特別ノ器材ト設備トヲ要スルモノニアリテハ頗ル困難トスル所ナリ故ニ航空勤務者ハ先ツ戰場ノ後方ニ於テ實戰ニ適應スル如ク練成シタル後戰列部隊ノ補充ニ充用スルヲ要ス

又戰列隊ニ於ケル破損若ハ老衰ノ航空機ハ成ルヘク戰地ニ於テ補修復活セシメ之ヲ前記ノ教育ニ利用スルハ輸送機關ノ節約上多大ノ利益アリ且戰列部隊勤務者ニ對シ新式器材ニ関ス

ル教習ヲ行フ爲ニモ戦地ニ教育機関ヲ有スルコト必要ナリト
 ス而シテ茲ニ若干ノ豫備員(一會戰ニ於ケル豫想減耗員)ヲ收容シ置
 シトキハ急速ナル補充ニ應シ得ルノ便ヲ有ス故ニ教育及補充
 ノ兩方面ノ必要ニ依リ戦地ニ航空練習所ヲ設クルヲ可トス
 戦地航空練習所ハ大ナル方面軍ニ對シ一個ヲ成ルハク戦後初
 期ヨリ設置シ所要ニ應シ逐次擴張シ操縦、偵察、射撃、爆撃
 等ノ分科ヲ置クモノトス

六、戦時教育機関ノ編制ニ関シテハ平時教育機関ノ組織及編
 制決定後ニ於テ研究ス

1037

五

航制第四四號

決議事項報告ノ件

大正拾壹年 貳月四日 陸軍航空制度研究委員會長井上義太郎

陸軍大臣山梨半造殿

當委員長ニ於テ研究決議セル事項
別冊ノ通及報告候也

別冊

報告第五號

貳部(轉二号)

陸軍

秘

報告第五號

參五部内第壹號

平時陸軍航空諸機關及制度

大正十一年一月三十一日

陸軍航空制度研究委員長 井上幾太郎

報告第五號

平時陸軍航空諸機關及制度

目次

- 第一 航空兵科將校下士ノ補充
 - 第二 陸軍航空統轄機關
 - 第三 航空諸學校
 - 第四 陸軍航空技術部
 - 第五 航空廠
 - 第六 航空工廠
 - 第七 大(公)使館附陸軍航空補佐官
- 説明ノ部
- 第一 航空兵科將校下士ノ補充ニ就テ
 - 第二 陸軍航空統轄機關ニ就テ

- 第三 航空諸學校ニ就テ
- 第四 陸軍航空技術部ニ就テ
- 第五 航空廠ニ就テ
- 第六 航空工廠ニ就テ
- 第七 大(公)使館附陸軍航空補佐官ニ就テ

報告第五號

平時陸軍航空諸機關及制度

第一 航空兵科現役將校下士ノ補充

- 一 航空兵科現役士官ノ補充ハ主トシテ航空兵科士官候補生ヲ以テスル外航空兵科現役下士ノ進級ニ依ル
又必要ニ應シ臨時ニ他兵科現役士官ヲ航空兵科ニ轉科セシム
- 二 航空兵科現役下士ノ補充ハ概ネ陸軍補充令ニ準シテ自隊補充ニ依ル外現役下士ヲ志願スル民間操縦士ニシテ下士ニ適スル者ヲ以テス
- 三 航空兵科士官候補生ノ採用ハ航空勤務者ニ必要ナル身體検査ヲ課スル外ハ凡テ各兵科士官候補生ニ準シ採用後少尉任官マテノ教育及取扱モ亦概ネ各兵科士官候補生ニ準ス
- 四 飛行機操縦術或ハ航空特種技術ニ長セル下士ノ進級ヲ容易

ナラシメ航空兵科現役士官ノ要員中下士出身者ノ比例ヲ多ク
ス

五 少壯有爲ナル操縦下士ノ補充ヲ容易ナラシムル爲廣ク操縦
下士志願者(年齢十七歳以上)ヲ招募スルノ方法ヲ講ス

六 偵察將校ハ飛行機或ハ氣球ニ依ル偵察術(射彈觀測術ヲ含
ム、以下之ニ倣フ)ヲ修得セル各兵科(航空兵ヲ含ム)尉官ヲ
以テ之ニ充テ各其所屬部隊ニ在勤セシム

第二 陸軍航空統轄機關

一 現在ノ陸軍航空部ヲ改編シテ陸軍航空本部ト改稱シ同本部
長ハ陸軍大臣ニ隸ス

陸軍航空本部ハ陸軍航空ニ關スル諸般ノ調査、研究、立案及
航空兵科専門教育ノ整一進歩並航空器材ノ整備、貯藏、補給

及検査ヲ掌ル

二 陸軍省兵器局ノ器材課ニ於ケル航空器材ノ業務ヲ軍務局ノ航空課ニ併合ス

三 陸軍航空部隊ニ要スル諸経費ハ一括シテ陸軍豫算中ニ「航空費」ナル費目ヲ設ケ別途ニ積算ス

四 陸軍航空本部一次ノ諸機関ヲ隸屬ス

イ 航空諸學校

ロ 航空技術部

ハ 航空工廠

ニ 航空工廠

五 陸軍航空本部ハ本部長ノ下ニ一名ノ次長ヲ置キ本部ノ内部

ハ業務ノ種類ニ依リ之ヲ三部六課ニ區分シ其編制ヲ次表ノ如クス

陸軍航空本部 編制表

| | | | | | |
|---|------------------------------|----------------------|---------------|---------------|--|
| 考 備 | 計 | 本 部 長 中 將 一 | | | 人 員 |
| | | 次 長 少 將 一 | | | |
| | | 第 一 部 長 大 佐 一 | 第 二 部 長 大 佐 一 | 第 三 部 長 大 佐 一 | |
| | | 課 長 大 中 佐 六 | | | |
| (一) 本表定員ノ外必要ニ應シ航空器材検査ノ爲尉官准士官下士判任文官若干名ヲ増加スルコトヲ得 (二) 部長ノ内二名ハ少將ヲ以テ充ツルコトヲ得 (三) 技師ハ高等官三等以下トシ又技手ノ内六ハ航空技手トスルコトヲ得 | 將校同相當官及技師 六四 准士官下士判任文官 七七 | 部 員 | | | 中 少 佐 一 少 佐 四 大 尉 一 尉 官 七 下 士 八 判 任 文 官 六 九 内 技 手 二 三 計 手 二 |
| | | 技 師 三 | | | |
| | | 主 計 主 計 正 一 主 計 二 | | | |

第三 航空諸學校

航空兵科士官候補生及少尉候補者タル下士ノ軍事學教育ハ陸軍士官學校ニ於テスル外航空兵科ニハ左ノ諸學校ヲ必要トス

イ、航空兵學校

飛行機操縦術、機關術及航空戰術ニ關スル教育及研究

ロ、航空偵察學校

飛行機ニ依ル偵察術、航空寫眞、航空無線電信ニ關スル教育及研究

ハ、航空射擊學校

飛行機上機關銃射擊及對空機關銃射擊ニ關スル教育及研究

ニ、爆擊學校

爆擊ニ關スル教育及研究

右ノ外氣球ニ關スル學術及氣球ニ依ル偵察術ノ教育及研究

三

爲氣球練習部ヲ設ケ之ヲ某氣球聯隊ニ附屬ス
 二 航空諸學校ニ於ケル學生ノ種類竝大正二十三年帝國陸軍軍備充實期ノ航空兵力ヲ基準トセル毎年ノ教育人員ハ次ノ如シ

| 航空偵察學校 | | 航空兵學校 | | | | 學 校 | | 學 生 | | 種 類 | | | | | |
|----------------|------------------|----------------|-------------------|----------------|-----|-----|-----|----------------|------------------|-------------|-------------|--------|--------|----|---|
| 操縱者タル航空兵科尉官及下士 | 無線電信專修ノ航空兵科尉官及下士 | 寫真專修ノ航空兵科尉官及下士 | 偵察機操縱者タル航空兵科尉官及下士 | 飛行機偵察將校タル各兵科尉官 | 戰術科 | 機関科 | 操縱科 | 航空兵科士官候補生出身ノ尉官 | 航空兵科下士(下士候補者ヲ含ム) | 機関專修ノ航空兵科尉官 | 機関專修ノ航空兵科下士 | 航空兵科尉官 | 航空兵科下士 | 七〇 | 七 |
| 二一五 | 三六 | 三四 | 八〇 | 七五 | 四〇 | 七五 | 二五 | 一四五 | 一四五 | 二五 | 七五 | 七〇 | 七 | 七 | 七 |

第四 陸軍航空技術部

右ノ外航空諸學校及氣球練習部ニハ航空ニ関スル戰術及技術修習ノ爲必要ニ應シ各兵科佐官以下ヲ召集スルコトアリ

三 航空技術將校ノ養成ハ陸軍航空技術部附屬ノ養成所ニ於テスル外砲工兵技術將校ノ養成ニ準又

| | | | | | |
|---------------|-------------------|----------------|-------------------------|----------------------|----------------|
| 氣球練習部 | 航空射擊學校 | | | | |
| | 爆擊學校 | 飛行機偵察將校タル各兵科尉官 | 機上機関銃手及爆擊手タル航空兵科尉官下士及兵卒 | 對空機関銃射擊手專修ノ航空兵科尉官及下士 | 爆擊手タル航空兵科尉官及下士 |
| 氣球偵察將校タル各兵科尉官 | 爆擊機操縦者タル航空兵科尉官及下士 | 三 | 三 | 三 | 七 |
| | | 二九 | 三〇 | 三四 | 七五 |
| | | | | | 七二 |

一 現制ノ陸軍航空學校ヨリ技術研究ノ業務ヲ分離シテ陸軍航空技術部ヲ新設シ陸軍航空本部長ノ直屬トス
 陸軍航空技術部ハ軍用航空機並其附屬器具材料ニ関スル調査研究、設計、審査及試験ニ從事シ其改良進歩ニ関シ意見ヲ陸軍航空本部長ニ具申ス

二 陸軍航空技術部ハ業務及研究事項ノ種類ニ依リ其内部ヲ次
 ノ如ク區分ス

- イ、庶務科
- ロ、飛行機科
- ハ、發動機科
- ニ、裝備科
- ホ、氣球科
- ヘ、實驗科
- ト、航空衛生科

三 前記各科ノ研究及試験ニ必要ナル諸設備並各種模型及試験品ノ製作ノ爲小工場ヲ附屬ス

四 英、米、佛、獨等ノ諸國ニ部員若干名ヲ常時派遣シ航空機ニ関スル諸般ノ調査ニ任セシム

五 陸軍航空技術部ハ各専門毎ニ擔任事項ヲ狭クシ其研究ヲ深カラシムル爲十分ナル人員ヲ配屬シ且技師及技手ノ數ヲ比較的多カラシムルヲ要ス而シテ其編制ハ次ノ如クスルヲ可トス

陸軍航空技術部編制表

五

| 考 備 | 計 | 一 將 少 長 部 | | | |
|--|--|---|---|---|---------------------------------------|
| | | 技 師 | | 員 部 | |
| <p>一、部長ハ大佐ヲ以テ充ツルコトヲ得</p> <p>二、技師ハ高等官三等以下トス但一名ニ限り勅任トスルコトヲ得</p> <p>三、部員中佐官大尉四名ヲ外濶ニ派遣スルコトヲ得</p> <p>四、部員ト技師トハ其人員ヲ彼此融通スルコトヲ得</p> <p>五、本表定員外他ニ本職アル陸軍將校同相當官及陸軍技師ヲシテ部員ヲ兼勤セシムルコトヲ得</p> <p>六、中尉少尉以テ又准士官下士ハ上等工長又ハ工長ヲ以テ充ツルコトヲ得</p> | <p>將校同相當官技師 八一</p> <p>准士官下士判任文官 八四</p> | <p>大(中)佐 六</p> <p>中(少)佐 七</p> <p>少佐(大尉) 五</p> <p>大尉 二</p> <p>大(中)尉 一</p> <p>二等軍醫正 一</p> <p>一等軍醫 二</p> | <p>大(中)佐 六</p> <p>中(少)佐 七</p> <p>少佐(大尉) 五</p> <p>大尉 二</p> <p>大(中)尉 一</p> <p>二等軍醫正 一</p> <p>一等軍醫 二</p> | <p>准士官 二〇</p> <p>内上等計手 一</p> <p>下士判任文官 六四</p> | <p>人</p> <p>員</p> |
| | | <p>一等主計 一</p> <p>二等主計 一</p> <p>技師 一三</p> | <p>計手 二</p> <p>看護長手 二</p> <p>技手 三</p> | <p>計手 二</p> <p>看護長手 二</p> <p>技手 三</p> | <p>計手 二</p> <p>看護長手 二</p> <p>技手 三</p> |

第五 航空 廠

- 一 平時用並戰時用航空器材及油類ノ整備 貯藏及補給ニ関スル業務ノ實行ニ任セシメ且戰時ニ於テハ内地補給機關ノ基幹ヲラシムル爲航空廠ヲ特設シテ陸軍航空本部長ニ隸屬ス
- 二 航空廠ハ航空本廠及同支廠ヨリ成リ本廠ハ之ヲ東京ニ置キ支廠ハ所澤及各務ヶ原其他航空隊所在地若干ニ之ヲ置ク
- 三 航空支廠ハ航空器材ノ倉庫及油類ノ貯槽ヲ有シ尚重要ナル支廠ニハ航空機修理工場ヲ附屬ス
- 四 九州ニ設置スヘキ航空支廠ハ戰時ニ於テハ集積廠ノ任務ニ服シ得ル如ク準備ス
- 五 航空本廠及同支廠ノ編制ヲ次表ノ如クス

陸軍航空本廠編制表

| | | | |
|--------------|-----------------------|-----------------------------|--------------------------------|
| 本廠長 少將(大佐) 一 | | | |
| 備考 | 廠員大(中)尉 八少尉ヲ以テ充ツルコトヲ得 | 主計 | 廠員 |
| | | 主計 (三等主計正 一) (三等主計 一) | 中(少)佐 二 少佐(大尉) 三 大(中)尉 七 |
| | | 准士官 | 下士判任文官 |
| | | 技手 | 技手 |
| | | 一 | 一 |
| | | 二 | 二 |
| | | 四 | 四 |
| | | 八 | 八 |
| | | 六 | 六 |

航空支廠編制表

| | | | |
|-------------|-----------------------|-----------------------------|--------------------------------|
| 支廠長 中(少)佐 一 | | | |
| 備考 | 廠員大(中)尉 八少尉ヲ以テ充ツルコトヲ得 | 主計 | 廠員 |
| | | 主計 (三等主計正 一) (三等主計 一) | 中(少)佐 一 少佐(大尉) 一 大(中)尉 三 |
| | | 准士官 | 下士判任文官 |
| | | 技手 | 技手 |
| | | 一 | 一 |
| | | 一 | 一 |
| | | 一 | 一 |
| | | 一 | 一 |
| | | 四 | 四 |

一 廠員大(中)尉 八少尉ヲ以テ充ツルコトヲ得
 二 所澤及各務原支廠ニハ支廠長ヲ大佐トシ本表外中(少)佐一 大(中)尉二 准士官 下士各ニヲ增加スルコトヲ得
 三 本表外必要ニ應ジ航空技手及職工ヲ置クコトヲ得
 四 軍医ハ最寄ノ部隊ヨリ兼勤セシム

第六 航空工廠

一 年製約六〇〇機（日製二機弱）ノ平時製造力ヲ有スル飛行機機體製造所ヲ新設シ又飛行機用發動機ノ専門工場タル東京砲兵工廠機器製造所ヲ同工廠ヨリ分離シ此兩製造所ヲ合シテ航空工廠ヲ組織シ陸軍航空本部長ニ隸屬ス

二 機體製造所ノ位置ハ東京近傍トシ航空工廠本部ハ同製造所_構内ニ置ク

三 航空工廠ノ主要業務ハ飛行機々體及發動機並其部品及附屬品ノ新造ニシテ氣球及螺旋機其他裝備品ハ研究試作ヲ爲ス程度ニ止ム

四 陸軍航空部補給部所澤支部ノ工場ハ概テ現在設備ノ儘航空學校ノ附屬工場トシ同校使用飛行機ノ修理並陸軍航空技術部ノ試験品製造ヲ擔任セシム

五 航空工廠ノ編制ハ概要次表ノ如クス

| 小計 | 官 營 相 同 校 將 | | | | | | | | | | | 分 階 級 所 屬 | |
|----|-------------|---------|-------|---------|----------|-------|----|--------|----|-------|-------|-----------|--------|
| | 二(三)等軍医 | 一(三)等軍医 | 三等軍医正 | 一(三)等主計 | 二(三)等主計正 | 大(中)尉 | 大尉 | 少佐(大尉) | 少佐 | 中(少)佐 | 大(中)佐 | | 少將(大佐) |
| 一五 | 一 | | 一 | 二 | 一 | | 二 | 三 | 一 | 一 | 二 | 一 | 航空工廠本部 |
| 五 | | | | | | 三 | | | 一 | | 一 | | 機體製造所 |
| 七 | | 一 | | 一 | | 三 | | | 一 | | 一 | | 發動機製造所 |

航空工廠編制表

五 航空工廠ハ戦時ニ方リ急速ニ其製造力ヲ約七倍ニ擴張シ得ル如ク平時ヨリ準備シ置クヲ要ス

| 備考 | 總計 | 小計 | 其他 | | | 小計 | 官及准士 | | | |
|------------------------------|----|----|----|--------|---|--------|------|---|---|----|
| | | | 屬 | 技 | 技 | | 看護 | 計 | 工 | 上等 |
| 一、本部ハ庶務課、工務課、技術課、會計課、衛生課ニ分課ス | 五三 | 二一 | 五 | 一 二 | 四 | 一 七 | 三 | 五 | 五 | 四 |
| | 二三 | 一五 | 二 | 一 〇 | 三 | 三 | | | 二 | 一 |
| | 二九 | 一五 | 二 | 一 〇 | 三 | 七 | 二 | 二 | 二 | 一 |

第七 大(公)使館附航空補佐官

大(公)使館陸軍武官ノ下ニ航空補佐官ヲ増加シ速ニ米、支、英、佛、獨、六ヶ國ニ配置スルヲ要ス

説明ノ部

第一 航空兵科將校下士ノ補充ニ就テ

一、航空兵科ノ獨立ヲ必要トスルハ既ニ研究審議(報告第二號)セル所ノ如シ而シテ航空兵科獨立後ニ於ケル現役將校ノ補充ハ航空兵ノ特性上支障ナキ限り現制ノ陸軍補充令ニ準シ士官候補生ヲ以テスル外現役下士ヨリ進級セシメ士官候補生ノ採用、教育其他少尉任官迄ノ取扱ヲ他兵科士官候補生ト概ネ同様トスルヲ便トスルヤ勿論ナリ

抑々航空兵科將校ノ補充上考慮スヘキハ空中勤務ノ爲多數ノ青年將校ヲ必要トシ且カ進級ヲ如何ニスヘキヤノ問題ナリ空中勤務者中操縦者ハ過半ヲ下士トシ又偵察將校ノ大部ハ他兵科將校ヲ以テ充當シ得ルヲ以テ航空兵科青年將校ノ要員ヲ著

シク減スルヲ得尚後ニ速フル如ク現役士官ノ一部ヲ下士出身者トスルトキハ更ニ士官候補生出身將校ノ数ヲ減スルヲ得ヘク從テ其進級問題ノ解決ハ敢テ困難ナラス故ニ航空兵科ニ在リテモ現役士官ノ補充ハ他兵科ト同様ニ主トシテ士官候補生ヲ以テスルヲ可トス

航空兵科ノ獨立ニ方リ現在航空關係部隊ニ勤務シアル各兵科將校ヲ航空兵科ニ轉換スルヲ要スルハ勿論爾後ニ於テモ偵察將校及技術將校等ヲ航空兵科ニ轉科セシムルヲ必要トスル場合アルヘシ

二、航空兵科ニ於ケル各級ノ軍隊指揮官及統帥部在職者ハ空中勤務ノ經驗ニ富ミ且諸兵種ノ戰術ニ關シ十分ナル智識ヲ有セサルヘカラス從テ航空兵科士官候補生ニ對スル軍事教育ハ他兵科士官候補者ト概ニ同様ナラシムルヲ可トス而シテ飛行機操縦術、空中偵察術等ノ分業教育ハ之ヲ士官學校卒業後ニ於

テス

是ヲ以テ航空兵科士官候補生ハ其採用時ニ於テ航空勤務者ニ
 必要ナル身体検査ヲ課シ採用後ニ於ケル隊附勤務、士官學校
 在學ノ期間及少尉任官時期等ハ他兵科士官候補生ト同様トシ
 隊附勤務及士官學校術科ニ於テハ航空兵本務就中地上勤務ニ
 関スル事項ヲ教育スルモ士官學校ノ軍事學ハ他兵科ノモノト
 概テ同等ノ程度トシ要スレハ其細部ニ於テ若干取捨スルモノ
 トス

三、

航空兵科ハ飛行機操縦術、空中偵察術以外ニ機關術、航空
 寫真術、無線電信術等多様ノ特種技術ヲ必要トシ此等ニ對シ
 テハ夫々高等技術官ヲ要スルコト勿論ナリト雖航空部隊ニ於
 テ特業者ノ教育及指導ノ爲ニハ高等學理ニ達シアラサルモ十
 分ノ經驗ヲ有セル所謂中級技術官程度ノ將校ヲ要スルコト亦
 頗ル多シ此等將校ノ多クハ現役下士中特種技術ニ長セル者ヲ

以テ補充スルヲ最モ策ノ得タルモノトス其他航空器材業務ニ於テ操縦下士及特業下士ノ出身者タル將校ヲ利用スヘキ箇所歎カラス而シテ下士ヨリ將校ニ進級セシムルニ先テ少尉候補生トシ相當ノ教育ヲ施スヲ要スルヤ勿論ニシテ其軍事教育ハ士官學校ニ於テシ航空專門ニ關スル事項ハ航空學校ニ於テ教育スルヲ可トス

四、操縦者ノ過半ヲ下士トシ更ニ進テ操縦將校ノ一部ヲモ下士出身者ヲ以テシ又特種技術ニ長セル下士出身ノ將校ヲ廣ク利用センカ爲ニハ下士ノ進級及待遇ヲ改善スルト共ニ少尉候補者ハ獨リ特務曹長ノミナラス曹長級ヨリモ此ヲ選出スルコトトシ未タ其銳氣衰ヘサル以前ニ於テ將校ニ進級セシムルヲ要ス

現役下士ノ補充モ亦他ノ一般兵科ニ於ケル如ク自隊ノ下士候補者タル兵卒ニ依ルヲ通則トスルヲ可トス而シテ少壯有爲ノ

操縦下士ヲ得ル爲廣ク年少ノ操縦下士志願者ヲ召募スル方法
 ヲ講スルヲ要ス、現行ノ徵兵令第十二條ニ於テ年少ノ兵役志
 願者ヲ採用スルノ途ヲ開ケリト雖操縦下士候補者ハ相當ノ學
 カラ有シ其採用ニ方リテ嚴密ナル身体検査ヲ要スルヲ以テ其
 召募ノ方法ハ自ラ一般兵卒ト大ニ趣ヲ異ニシ特別ノ規定ヲ必
 要トスヘシ

五、偵察將校ハ其任務ニ從ヒ或ハ諸兵種ノ戰鬥ニ或ハ砲兵射撃
 ニ精通シアルヲ要ス即チ戰術的眼識ヲ主トシ航空機其物ニ関
 スル智識ハ之ヲ從トシ得ルヲ以テ必スシモ航空兵科將校タル
 ヲ要セス故ニ偵察將校ノ大部ハ各兵科尉官中ヨリ適任者ヲ選
 ミテ之ニ必要ナル教育ヲ施シ各々其兵科ノ部隊ニ於テ勤務セ
 シメ必要ニ際シ之ヲ航空隊ニ召集スルヲ可トス而シテ航空兵
 科尉官ニシテ偵察將校タルヘキ者ノ數ハ平時航空隊ノ勤務及
 演習ニ必要ナル程度ニ止メ此等將校ハ臨時配屬ノ他兵科偵察

将校ニ對シ指導者トナリ且長時間困難ナル任務ニ服シ得ル如ク
練磨セシムルモノトス

第二 陸軍航空統轄機關ニ就テ

航空機ノ進歩ハ頗ル駿速ニシテ殆ト日進月歩ノ状態ニアリ
 從テ航空部隊ノ供用器材モ其變遷極メテ頻繁ナリ而シテ器材
 ノ變遷ニ伴ヒ教育ノ方法及施設等全然一變スルカ否ラサルモ
 大ナル變更ヲ來スモノトス故ニ航空器材ノ整備及補給ハ他ノ
 一般兵器ノ夫レト大ニ其趣ヲ異ニシ絶ヘス技術ノ發達ト教育
 上ノ要求トニ伴ハシムル爲特ニ整備ノ迅速ト補給ノ敏活トヲ
 要件トスルハ勿論既ニ整備ノ途中ニアルモノト雖臨機之ヲ改
 更スル等機宜ノ處置ヲ必要トスル場合尠シトセス若シ整備迅
 速ヲ缺キ機宜ノ處置適切ナラサルトキハ新品ノ器材ニシテ既
 ニ陳腐ニ屬シ又器材ノ支給ハ教育上ノ要求ニ適合セス到底航
 空事業ノ發達ヲ期シ得サルハシ是レ航空ニ關シテハ特ニ計畫
 ト實行トヲ一手ニ統轄スルハキ機關ヲ必要トスル所以ナリ此主

旨ヨリ論スレハ陸軍航空本部ニ於テ行政、教育及器材等ノ業
 務ヲ統轄シ同本部長ヲシテ陸軍航空ニ関スル最高責任者ヲラ
 シムルヲ可トスヘシ然レトモ佛國ニ於ケル航空次官ノ如ク航
 空ニ関スル准大臣タルノ官制ハ本邦ニ於テ直ニ之ヲ適用スル
 能ハス陸軍大臣カ陸軍全般從テ陸軍航空ニ関シテモ直接ノ責
 任ヲ有スル以上ハ陸軍航空業務ヲ監督命令スルタメ相當ノ諮
 詢機關ヲ有セサルヘカラス即チ計画及實行ノ機關タル陸軍航
 空本部ト大臣ノ諮詢機關タル航空課トヲ必要トス
 本邦ノ現制ニ於テハ陸軍省軍務局ニ航空課ヲ置キ航空行政上
 諸般ノ計画並命令ノ立案ニ任セシメ兵器局器材課ヲシテ航空
 器材ノ業務ヲ担任セシメ又外ニ陸軍航空部ヲ設ケテ實行機關
 トセリ從テ陸軍航空業務ハ系統ヲ異ニセル三個ノ機關ニ分掌
 セラル是レ航空ノ如ク計画ト實行トカ特ニ密接且迅速ナル連
 繫ヲ要スルモノニ於テ業務ノ統一及敏捷ヲ求ムルノ策ニアラ

サルナリ現ニ此三機關ノ業務ハ分界明瞭ナラス一新问题ノ起ル毎ニ相協定シテ分担ヲ定ムルコトヲ勉メツツアルモ之カ爲時日ヲ空費スルハ勿論往々ニシテ遺漏或ハ意見ノ相違ヲ生シ業務ノ進捗上不便ヲ感スル場合歎カラス

是ヲ以テ航空教育、施設及器材ノ整備補給ハ航空諸部隊ト密接シアル陸軍航空本部ヲシテ計画及實行ニ任セシメ陸軍大臣カ之ヲ監督スル爲必要ナル諮詢機關トシテ軍務局ノ一部ニ航空課ヲ存置スルトキハ現制ノ如ク三機關分掌ニ比シ業務ノ統一及敏活ヲ期スルコト容易ナリ

二、兵器行政ヲ管掌スヘキ兵器局ヨリ航空器材ノ業務ヲ分離スルハ兵器局設置ノ主旨ニ反スヘシトノ論ヲナス者アラン抑々航空機ハ変遷及衰損極メテ迅速ニシテ其命数ハ三四ヶ月ニ過キスシテ一種ノ高價ナル消耗品或ハ練習用具ト見做シ得ヘキモノナリ又一方ニ於テハ其整備及補給ハ技術ノ發達ト教

育上ノ要求トニ依リ特ニ機宜敏活ナル處置ヲ必要トスルヲ以テ之ヲ他ノ一般兵器ト同一規定ニヨリテ取扱フハ適當ナラスシテ整備及取扱上若干ノ自由ヲ存スルヲ可トス

上述ノ理由ニ依リ航空器材ノ整備ハ他ノ航空業務ト連繫シテ航空機關ニ於テスルヲ要ス即チ陸軍航空本部ヲシテ器材整備ノ計画ヲ爲サシメ之ニ對スル命令ノ立案ハ航空課ヲシテ任セシムルトキハ器材ノ業務ヲシテ最モ能ク他方面ノ要求ニ適應セシメ得ルヤ明ナリ但航空部隊用ノ一般兵器ニ關シテハ依然兵器局ノ管掌スル所トシ其範圍ヲ明瞭ニ區分スルト共ニ整備支給ノ方法ニ就テハ兵器局ト航空機關トノ間ニ於テ豫メ協定シ置クヲ要ス

三、航空機ノ變遷ニ伴ヒ教育ノ方法及施設並器材ノ整備ニ大ナル変更ヲ來スモノニシテ設備費、器材費及演習費等ノ運用モ亦之ニ伴ハサルヘカラス從テ相互若干ノ流用ヲモ必要トスル

場合歎シトセス

演習費ノ大部分ハ消耗油類費ニシテ要求スル教育、演習ノ程度、教育人員及使用器材等ニ依リ大ナル増減ヲ來スモノトス例ヘハ甲隊ニ於テハ百馬力發動機ヲ使用シ乙隊ニ於テハ二百五十馬力發動機ヲ使用スルトセハ同等ノ人員ヲ以テ同一程度ノ演習ヲ行フニ對シ消耗油類費ハ一トニ五トノ比ヲ生ス故ニ演習費ノ配當ハ部隊ノ實況ヲ基礎トシ安排セサルヘカラス是ヲ以テ航空部隊ノ諸費ハ教育、施設及器材ノ三者ヲ統一シタル基礎ノ下ニ積算シ其豫算ノ運用上ニ於テモ寸毫ノ遺漏ナク最モ有効ニ使用セシムルノ策ヲ取ルコト極メテ緊要ナリ之カ爲ニハ現制ノ如ク航空部隊ノ諸費ヲ諸種ノ費目ニ分割シテ系統ヲ異ニセル數機關ニ分掌スルコトナク航空費ヲ一括シ某ハ機關ヲシテ其積算及運用ヲ掌ラシムルヲ要ス航空費トシテ一括スヘキ範圍並其取扱ニ関シテハ別ニ之ヲ研

究スルヲ要ス

四、陸軍航空本部ヲシテ陸軍航空ニ関スル諸般ノ調査、研究立案及航空諸隊本科専門教育ノ整一進歩並航空器材ノ整備、貯藏、補給及検査ヲ掌ラシムル爲ニハ之ニ次ノ諸機関ヲ隸屬スルヲ要ス

イ、航空諸學校

操縦、偵察、戦闘、爆撃、氣球及機関等ニ関スル學校ヨリ成ル

ロ、航空技術部

航空器材ノ設計、審査及試験ニ從事シ航空機發達ノ狀況ヲ調査ス

ハ、航空廠

航空廠ハ航空本廠及支廠ヨリ成リ航空器材及特種消耗品等ノ調辨、貯藏、補給及運輸ニ從事ス

二、航空工廠

飛行機製造所及發動機製造所ニ區分シ夫々器材ノ修理及製作ニ任ス

航空ニ関スル教育ハ假令戰術的ノモノト雖モ技術及器材ト分離シテ講究スル能ハス而シテ其技術及器材ノ進歩變遷ハ頗ル駿速ナルヲ以テ航空業務ニ於テハ諸問題ノ解決ハ特ニ迅速ナルヲ要ス例ヘハ教育ノ見地ヨリ苟モ改良ヲ要シ或ハ危険ト認メタル器材ハ直ニ改良ニ着手スルカ或ハ使用製作ヲ停止セサルヘカラスモハ一長官ノ下ニ前記ノ諸機關ヲ集結シ敏捷且適切ニ業務ヲ處理シ他ノ中間機關ヲ介スルカ爲ニ生スル時日ノ空費ト意見ノ背馳トヲ避ケサルヘカラス

五、陸軍航空本部ニハ航空諸學校、航空技術部、航空廠及航空工廠ノ如キ各組織大ナル數機關ヲ隸屬シ其業務極メテ廣泛ナルヲ以テ本部長ノ業務ヲ補佐セシムル爲次長一名ヲ置クニト

必要ナリ而シテ本部ノ内部ヲ次ノ三部ニ區分ス

イ、第一部（或ハ總務部）

庶務、人事、編制制度、調査、經理其他一般航空ニ關スル事項ヲ管掌ス

ロ、第二部（或ハ教育部）

航空學校及航空諸軍隊ノ教育並之ニ關スル調査、研究事項（主トシテ典令範ニ關スルモノ）ヲ管掌ス

ハ、第三部（或ハ器材部）

航空器材ノ制式及整備並検査ニ關スル事項ヲ管掌ス
以上各部ハ更ニ二課ニ區分シ各課ノ業務區分及人員ノ配當ハ概ネ附表第一ノ如クス

航空器材ハ製作間及受領時ニ於テ最モ嚴密ナル検査ヲ必要トスルヲ以テ比較的多シノ検査官及同助手ヲ關係各所ニ配置スルヲ要ス現況ニ於テ検査官ノ配置ヲ必要トスル場所及之ニ配

當スヘキ人員ハ附表第二ノ如シ尙將來ニ於テ航空器材ノ製作工場ハ益々増加スヘキヲ以テ必要ニ應シ検査官以下ヲ増員セサルヘカラス

六、新調若ハ修理飛行機ノ飛行検査ニ従事スル操縦者ハ伎倆優秀ニシテ且經驗アルヲ要スセニ反シ軍事智識ヲ要求スルコト歎シ故ニ軍事教育ヲ主トシテ養成セラレタル現役操縦者中ヨリ優秀ナル者ヲ撰ミ飛行検査ニ従事セシムルハ陸軍航空全般ノ爲頗ル不利トスル所ナリ而シテ其補充困難ナル情況ニ於テ特ニ然リトス

他方ニハ民間航空業獎勵ノ一手段トシテ陸軍航空學校ニ於テ民間飛行家ヲ教育シツツアルヲ以テ此等内伎倆優秀ナル者ヲ採用シテ飛行検査若ハ空中輸送ニ依ル補給業務ニ服セシムルトキハ民間飛行家就職ノ途ヲ開キ其獎勵ヲ徹底的ナラシムル所以ナリ

以上ノニ理由ニヨリ民間飛行家ヲ航空技手ニ採用シ得ル制度ヲ設ケ之ヲシテ検査業務並補給業務ニ従事セシムルヲ可トス

附表第一

各課業務區分及人員配當ノ標準

| 部 三 第 | | 部 二 第 | | 部 一 第 | | 區 分 | 將校同相當官 准士官下士判任文官 員 | 主 要 業 務 |
|--|---|--|--|--|--|--|--|---------|
| 第 六 課 | 第 五 課 | 第 四 課 | 第 三 課 | 第 二 課 | 第 一 課 | | | |
| <p>課長 大(中)佐 一</p> <p>大(中)佐 一</p> <p>技 師 尉 二</p> <p>大 尉 一</p> <p>中(少)佐 五</p> <p>尉 官 七</p> | <p>課長 大(中)佐 一</p> <p>大(中)佐 一</p> <p>技 師 尉 三</p> <p>大 尉 二</p> <p>少 佐 一</p> | <p>課長 大(中)佐 一</p> <p>大(中)佐 一</p> <p>尉 尉 三</p> <p>大 尉 一</p> | <p>課長 大(中)佐 一</p> <p>大(中)佐 一</p> <p>尉 尉 三</p> <p>大 尉 一</p> | <p>課長 大(中)佐 一</p> <p>大(中)佐 一</p> <p>尉 尉 三</p> <p>大 尉 一</p> | <p>課長 大(中)佐 一</p> <p>副官 大(中)尉 二</p> <p>主 計 二</p> <p>二(三)等主計正 一</p> | <p>技 手 二</p> <p>技 手 一</p> <p>技 手 三</p> <p>技 手 二</p> <p>技 手 一</p> <p>技 手 五</p> <p>技 手 二</p> <p>計 手 二</p> <p>計 手 七</p> | <p>一般庶務 人 事</p> <p>豫算經理ニ関スル事項</p> <p>航空ニ関スル諸情報ノ蒐集</p> <p>編制制度動員ニ関スル事項</p> <p>軍隊學校等施設ニ関スル事項</p> <p>軍隊學校ノ教育ニ関スル事項</p> <p>學生及航空術修業員ノ召集及進退ニ関スル事項</p> <p>檢閲及演習ニ関スル事項</p> <p>典令範ニ関スル事項</p> <p>航空事故調査及統計ニ関スル事項</p> <p>氣象及通信網ニ関スル事項</p> <p>航空器材制式ニ関スル事項</p> <p>兵器定数表ニ関スル事項</p> <p>航空器材取扱保存ニ関スル事項</p> <p>航空器材整備ニ関スル事項</p> <p>航空被服ニ関スル事項</p> <p>航空技術部及航空工廠ニ関スル事項</p> <p>軍需工業動員ニ関スル事項</p> <p>(本部在勤)</p> <p>檢査ニ関スル一般事項</p> <p>檢査規格檢査法ニ関スル事項</p> <p>檢査官(檢査官配當ノ附表) 第二ノ如シ</p> | |

附表第二

検査官配置表

| 備考 | 計 | 大 | 各 | 名 | 所 | 東 | 場 | | 分 | | | |
|---|----|----|------------|---------------------|--------|-------------|------|-------|------|---------------------|-----|----|
| | | 神 | 務 | 濱 | 所 | 京 | 所 | 所 | | | | |
| 本表ハ現在ノ状態ヲ基礎トシテ人員ヲ既当セルモノニシテ将来航空機ニ関スル工場ノ増加ト共ニ人員ヲ増加スルヲ要ス | | 戸阪 | 原 | 古松屋 | 澤 | 京 | 中(火) | 尉 | 官 | 准士官 | 下士官 | 在官 |
| | 五 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 佐 | 尉 | 官 | 准士官 | 下士官 | 在官 |
| | 一七 | 三 | 三 | 四 | 三 | 四 | 佐 | 尉 | 官 | 准士官 | 下士官 | 在官 |
| | 四二 | 八 | 八 | 八 | 八 | 一〇 | 佐 | 尉 | 官 | 准士官 | 下士官 | 在官 |
| | | 其他 | 大阪工廠、川崎、住友 | 補給部支部 飛行機組立及飛行検査 | 日本樂器其他 | 機器、熱田、三菱、岡本 | 飛行検査 | 補給部支部 | 飛行検査 | 東京工廠、瓦斯電氣會社、中島製作所其他 | 分 | 擔 |

1074

第三 航空諸學校ニ就テ

一、航空隊ニ於テハ將校及下士ノ大部ハ操縦、偵察、機関、寫真、無線電信、爆撃等ノ種別ニヨリ各自ノ特業ヲ以テ勤務スルヲ普通トス航空兵科士官候補生ハ總テ陸軍士官學校ヲ經由スト雖其教育ハ主トシテ各兵種ニ共通ノ一般軍事學ニシテ航空兵本務ニ関スル事項ハ一般的ニ其概要ヲ會得セシムルニ過キス故ニ航空兵科將校トシテ必要ナル特種技術ノ教育ハ陸軍士官學校以外ニ於テ實施セサルヘカラス而シテ此等ノ特業教育ハ特種ノ器材ト廣大ナル設備トヲ要スル關係上軍隊ニ於テ行フヲ不利トスルモノアリ即チ操縦、偵察、空中射撃、爆撃等ノ如シ

是ヲ以テ陸軍士官學校ノ課程以外ニ航空兵科將校ニ必要ナル學術科ノ基礎教育ヲ施ス爲特別ノ學校ヲ必要トス而シテ

軍隊ハ爾後ノ教育及練成ニ任ヒシムルモノトス
 下士卒ノ教育及練成ハ軍隊教育令ノ主旨ニ準據シテ軍隊ニ於
 テ行フヲ本則トスト雖特種ノ施設ヲ要スル操縦術、空中射撃
 術及爆撃等ノ教育ハ前述ノ特別學校ニ於テスルヲ適當トス
 又他方ニ於テ航空器材ノ駿速ナル變遷ニ伴ヒ教育ノ方法ニ大
 ナル變化ヲ來スモノナリ故ニ屢々軍隊ヨリ將校下士ヲ召集シ
 テ新器材ニ関スル教育ヲ行フト同時ニ軍隊教育ノ進歩整一ヲ
 圖ラサルヘカラス

二、航空兵科將校及下士ニ必要ナル特業中別ニ學校ヲ設ケテ教育ス
 ルヲ要シ或ハ學校教育ヲ便トスルモノ尤ノ如シ

1. 飛行機操縦術
2. 飛行機ニ依ル偵察術
3. 空中射撃術
4. 爆撃術

5. 氣球 = 依ル偵察術

4. 航空寫真術

3. 航空無線電信術

2. 機關術

前記ノ諸教育ヲ一校ニ集ムルハ最モ希望スル所ナルモノ乃至
各々特種ノ場所ト施設トヲ要シ又氣球ノ昇騰ハ飛行機ノ
運動ヲ妨碍スル等ノ關係上到底之ヲ一地ニ集結スルコト困難
ナリ殊ニ本邦ノ如ク廣濶ナル飛行場ヲ得難キ地形ニ於テ然リ
トス從テ少クモ左ノ五ヶ所ニ分置スルヲ要スヘシ

飛行機操縦術ノ爲

一ヶ所

廣大ナル飛行場ヲ要シ教育人員多ク從テ使用飛行機數大

ナルトキハ更ニ數ヶ所ニ分置ヲ要スヘシ而シテ茲ニ機

關術及航空戰術ノ教育機關ヲ併合スルヲ得

飛行機 = 依ル偵察術ノ爲

一ヶ所

二

砲兵射撃場 = 近ク且他ノ諸兵種トノ連合演習 = 便ナル位置 = 飛行場ヲ要ス而シテ航空寫真及航空無線電信術ノ教育及研究機關ハ茲ニ附屬スルヲ便トス

空中射撃術ノ爲

一ヶ所

飛行場以外ニ廣大ナル射撃場ヲ要ス

爆撃術ノ爲

一ヶ所

夜間飛行ノ爲特ニ大ナル飛行場ヲ要シ且廣大ナル投
彈地ヲ必要トス

氣球 = 依ル偵察術ノ爲

一ヶ所

特ニ大ナル場所ヲ要セサルモ飛行場ヨリ遠隔シアル
ヲ要ス而シテ茲ニ氣球ニ関スル學術ノ教育及研究機
関ヲ附屬スルヲ可トス

右ノ内氣球 = 依ル偵察術ハ概テ氣球隊ニ於ケル施設ヲ以テ教
育ヲ行ヒ得ルカ故ニ之カ爲特ニ一校ヲ創設セサルモ一氣球聯

隊ニ練習部ヲ設ケ所要ノ職員ト施設トヲ増加スルヲ以テ満足
シ得ヘシ而シテ練習部ハ教育及研究ニ関シテハ其所管長官タ
ル師團長ヲ經ルコトナク直接陸軍航空本部長ニ隸屬セシムル
ヲ要ス

他ノ四ヶ所ノ内操縦、偵察、射撃ニ関スル學校ハ現在ノ所澤
下志津及明野ニ於ケル設備ヲ基礎トシテ之ヲ擴張完備スルヲ
可トス而シテ現制ノ如ク所澤ヲ本校トシ他ヲ之カ分校トシテ
一校長ヲ以テ之ヲ總轄セシメントスルハ其實行困難ナルノミ
ナラス命令文書ノ送達ハ所澤ノ本校ヲ經由スル爲徒ラニ日子
ヲ費シ業務ノ敏活ヲ期スル能ハス故ニ各々獨立ノ一校ト爲シ
直接陸軍航空本部ニ於テ之ヲ統轄スルヲ有利トス
之ヲ要スルニ航空兵科ハ氣球練習部以外ニ飛行機ニ関シテ左
ノ四學校ヲ必要トス即チ

イ、航空兵學校——飛行機操縦術、機關術及航空戰術

ニ関スル教育及研究

ロ、航空偵察學校

飛行機ニ依ル偵察術、航空寫真、

航空無線電信ニ関スル教育及研究

ハ、航空射撃學校

飛行機上機関銃射撃及對空機関銃

射撃ニ関スル教育及研究

ニ、爆撃學校

爆撃ニ関スル教育及研究

三、前記諸學校

ニ於ケル學生ノ種類ハ本文第二項ニ表示セルカ

如シ而シテ大正二十三年帝國陸軍軍備充實期ニ於ケル航空兵

力(平時飛行十四聯隊及氣球三聯隊)ヲ標準トシ學生數ヲ計

算スレハ左ノ如シ

イ、航空兵學校

ノ操縦科

戰時ニ於ケル飛行機操縦者ノ要員ハ總計一、六七四名

ニシテ約其五分ノ一ハ民間操縦士ヲ徵集シ得ルモノ

トセハ操縦者タル将校下士（豫備役ヲ含ム）ハ一三三五名
トナル而シテ将校ト下士トノ比ヲ概ネ一ト二トシ操
縦勤務年限ヲ八年ト假定シ此間ニ於ケル減耗ヲ約三
割トスレハ毎年教育スヘキ人員ハ次ノ如シ

将校 七〇名

戦闘機操縦者 三五名

偵察機操縦者 二五名

爆撃機操縦者 一〇名

戦闘機操縦者 七〇名

偵察機操縦者 五五名

爆撃機操縦者 二〇名

下士 一四五名

之、機関科

戦時ニ於ケル機関係要員ハ将校約三〇〇名、下士約
一、二〇〇名ニシテ此内将校要員ノ約三分二ハ一年志願
兵出身者ヲ以テ又下士要員ハ約三分二ハ下士勤務ヲ

執り得ル兵卒(祭動機工術或ハ飛工機工術專修)及民間
航空従業者ヲ以テ充當シ得ルモノト假定シ且充用年
限ヲ將校ハ十年下士ハ八年トシ此間ニ於ケル減耗ヲ
約ニ割トスレハ毎年教育スヘキ人員ハ將校ニ五名下
士六〇名トナル

3. 戰術科

航空各部隊ヨリ古參大尉一、古參中尉一ヲ召集スル
モノトシ學生數ヲ約四〇名トス

ロ、航空偵察學校

1. 偵察將校

戰時ニ於ケル飛行機偵察將校ノ要員ハ三五九名ニシテ
充用年限ヲ六年トシ此間ニ於ケル減耗ヲ約ニ割トス
レハ毎年ノ教育人員ハ七二名トナル

2. 偵察操縦者

前計算ニヨリ將校二五名、下士五五名、計八〇名トナル
 3、寫真專修者

各聯隊（氣球ヲ含ム）ヨリ毎年將校一、下士一ヲ召集スル
 モノトシ學生數ヲ將校一七名、下士一七名トス

4、無線電信專修者

偵察、爆撃、氣球ノ各聯隊ヨリ毎年將校一、下士二ヲ
 召集スルモノトシ學生數ヲ將校一二名、下士二四名トス

八、航空射撃學校

操縦者タル將校下士合計二一五名

2、偵察將校六〇名

3、戰時飛行機上機關銃手ノ要員二二三名ニシテ爆撃手
 タル將校下士（射撃教育ヲ要ス）一六一名ナリ此兩者ニ
 於テ充用年限ヲ六年トシ此間ニ於ケル減耗ヲ約二割トスレ
 ハ毎年ノ教育人員ハ次ノ如シ

飛行機上機関銃手

四五名

下士 兵卒

一五名 三〇名

爆撃手

三〇名

将校 下士

一〇名 二〇名

4. 對空機関銃射撃ニ関シテハ銃手タル兵卒ハ軍隊教育

トシ毎年各聯隊ヨリ教官タルヘキ将校下士各一ヲ召

集教育スルモノトシ學生數ハ将校一七名下士一七名

トス

二、爆撃手學校

ノ爆撃手手

戰時爆撃手ノ要員ハ一六一名ニシテ充用年限ヲ六年ト

シ此間ニ於ケル減耗ヲ約ニ割トスレハ毎年ノ教育人員ハ約

三〇名トナル而シテ将校ト下士トノ比ヲ一ト二トス

レハ學生數ハ將校一〇名、下士二〇名トナル
 之、爆撃操縦者

前計算ニ依リ將校一〇名、下士二〇名トナル

ホ、氣球練習部

氣球偵察將校ノ戰時要員ハ一四四名ニテ充用年限ヲ六年
 トシ此間ニ於ケル減耗ヲ約二割トスレハ毎年ノ教育人員ハ二九名トナル

四、日進月歩其底止スル所ヲ知ラサル航空技術ノ發達ニ追隨ス
 ル爲メカ研究ニ任スヘキ航空技術將校ノ養成ニ關シテハ特ニ
 留意スルヲ要ス而シテ其養成ハ陸軍航空技術部ニ養成所ヲ附
 屬シ若干ノ專務職員ヲ置キ教官ノ大部ハ陸軍航空技術部職員
 ラシテ兼勤セシムルヲ便トス高砲工兵技術將校ノ補充ニ準シ
 テ或ハ帝國大學卒業生ヲ將校ニ採用シ或ハ砲工學校員外學生
 ノ制度ニ倣ヒ本邦ノ高等學府ニ分遣シ或ハ歐米ニ留學セシム
 ル等ノ策ニ出ツルヲ要ス

第四 陸軍航空技術部ニ就テ

歐米諸國ニ於テ航空機ノ進歩發達カ急速ナルハ一ニ航空ニ
關スル研究機關ノ完備セルニ依ルモノニシテ各國共ニ益々將
來ニ於ケルニカ擴張整備ヲ企劃シツツアリ彼ノ航空界ニ比シ
遙ニ遜色アル本邦ニ於テ速ニ完全ナル航空研究機關ヲ設立ス
ルノ緊要ナルハ論ヲ俟タサルナリ

我カ帝國大學附屬ノ航空研究所ニ於テ航空ニ關スル基礎的學
理ノ研究ヲ開始セリト雖陸軍航空部隊ニ於テ使用スヘキ各種
飛行機、發動機、氣球及爆撃、射撃、通信、寫真ニ關スル諸
器材並各特種車輛ノ設計、審査及試験ヲ托スルコト能ハサル
ヘシ蓋シ大學附屬ノ研究所ハ之ニ必要ナル設備及編制ヲ有セ
サルノミナラス斯ノ如キハ用兵上ノ諸問題ト密接ナル關係ヲ
有シ且兵器トシテ秘密ヲ嚴守スルヲ要シ當然本科將校ヲ主腦

トスル陸軍航空研究機関ニ於テ担任スヘキモノナレハナリ
 海軍ハ既ニ航空研究所ヲ創設セリ陸軍ニ於テハ陸軍航空學校
 研究部ヲシテ技術上ノ研究ヲ担任セシメツツアルモ緊急問題
 ノ解決スラ高及ハサル所多キ状態ニアリ是レ殆ト研究設備ヲ
 有セス且其組織ノ貧弱ナルノミナラス各種教育ノ實施ニ忙殺
 セラレツツアル航空學校ニ附屬シアルカ爲ナリ是ヲ以テ同校
 ヲリ技術研究ノ業務ヲ全然分離シ別ニ陸軍航空技術部ヲ設ケ
 航空器材ノ補給及製作機關ト相併立シテ陸軍航空本部長ニ隸
 屬セシムルヲ要ス而シテ現在ノ航空學校研究部ハ之ヲ改編シ
 テ專ラ航空隊ノ用法及教育ニ關スル研究ニ任セシム

二、航空ニ關スル技術ハ頗ル廣汎ニシテ諸種ノ専門科學ニ亘レ
 リ故ニ之カ研究ハ多數ノ専門技術者ヲシテ分担セシメサルヘ
 カラス從テ陸軍航空技術部ノ内部ヲ業務及研究事項ノ種類ニ
 依リ概ネ次ノ如ク區分スルヲ適當トス

イ、庶務

一般庶務、器材、工場及經理ニ関スル事項

ロ、飛行機科

各種飛行機々体及螺旋機ニ関スル事項
各種発動機及燃料、発電機、氣化器、放熱器等ニ関スル事項

ハ、発動機科

氣球及附屬特殊車輛ニ関スル事項

ニ、氣球科

爆撃、射撃、通信、寫真等ニ関スル器材及航空機用計器類並航空隊用特殊車輛ニ関スル事項但機關銃拳銃及投下彈ヲ除ク

ホ、裝備科

ヘ、實驗科

物理的試驗、化學的試驗及氣象觀測等ニ関スル事項

ト、衛生科

航空ノ衛生及心理ニ及ホス影響及防護法ニ関スル事項

三、陸軍航空技術部の研究業務ヲ完全ナラシムル爲次ニ示ス諸
 試験ヲ行フニ要スル設備ヲ附属ス

飛行試験 飛行機抗力試験

螺旋機試験 発動機試験

低圧試験 発電機氣化器放熱器及唧筒試験

氣球試験 爆撃試験

射撃試験 無線通信試験

寫真試験 氣流試験

物理試験 化學試験

氣象觀測試験 衛生試験

右ノ外各種模型及試験品就中研究中ニシテ他ノ工場ニ注文シ
 得サルモノノ製作ノ爲小工場ヲ附属ス是レ研究業務ノ進捗ヲ
 速カナラシムル爲殊ニ必要ナリ
 以上ノ諸試験ニ必要ナル設備ヲ爲スト雖航空ニ関スル諸般ノ

研究ヲ陸軍獨力ヲ以テ行フコト殆ト不可能ナリ故ニ陸軍以外ニ於ケル各種ノ研究機關ニ特殊ノ研究ヲ依托シ或ハ之ト協同研究ヲ爲ス等有效ニ之ヲ利用スルヲ要スヘキコト勿論ナリ

四、歐米諸國ニ於ケル航空機ノ改良進歩ハ實ニ迅速ニシテ今日新銳ノ器材モ数月ナラスシテ舊式ニ屬スルカ如キ状況ナリ我陸軍航空技術部ノ組織及設備ヲ如何ニ完全ナラシムルモ尚多年彼ニ學ハサルハカラス故ニ航空ノ最モ發達セル英、米、佛獨等ノ諸國ニ少クモ各一名ノ部員ヲ常時派遣シ其發達ノ状況及趨勢ヲ調査報告セシメ我陸軍航空ヲシテ絶ヘス彼ニ追及セシムルコトヲ勉ムルヲ要ス

五、我邦ニ於ケル學術及工業ノ程度ヲ以テシテ歐米先進國ニ於ケル航空技術ノ發達ニ遅レサラシメンカ爲ニハ各當事者ヲシテ其擔任業務ヲ狭クシテ其研究ヲ深カラシムルコト必要ナリ故ニ研究上充分ナル人員ヲ配當スルヲ可トス又各種ノ專門科

學ニ亘ル技術者ハ軍ニ軍部ノミニ於テ適任者ヲ求ムルコト不
 可能ナル場合多キヲ以テ廣ク専門技術者ヲ採用シ得ンカ爲技
 師ノ数ヲ比較的多クシ且必要ニ應シテハ編制上ノ將校若干名
 ヲ技師ヲ以テ代ヘ得ルヲ要ス而シテ有爲ノ技術者ヲ得ント欲
 セハ之ヲ優遇スルコト必要ニシテ技師ノ内一名ハ勅任トスル
 ヲ可トス

研究ヲ深遠ニシ且中絶セシメサラシ爲ニハ進級轉補ニ依リ屢々
 其命課ノ變更ヲ來ササルヲ要ス故ニ各職務ニ對スル階級ノ範
 圍ヲ廣クシ進級ノ爲他ニ轉補スルノ必要ヲ少カラシムルヲ可
 トス

六 各科ニ於ケル業務區分及人員配當ノ標準ハ次表ノ如シ
 七 戦時ニ於テハ航空機ノ需要激增シ其型式及製作原料等ニ關
 スル研究事項ノ輕重ヲ見且敵國航空機ノ進歩ニ先ニスル爲研
 究ヲ促進スルヲ要ス從テ航空技術部ニ於ケル業務ハ著シク増

大シ多数ノ増員ヲ必要トスヘシ之カ爲ニハ所要ニ應シ戦時徴
 募シ得ヘキ民間技術者ヲ配属スルヲ適當トス而シテ研究上ノ
 組織ハ之ヲ変更スル必要ヲ認メス

陸軍航空技術部業務區分及人員配當ノ標準

| 計 | 少 | | | | | | | 部長 | | |
|------------------------------|---------------------|------------------------|--|---|---|---|---|--|--------|--------|
| | 外國派遣者 | 航空衛生科 | 實驗科 | 氣球科 | 裝備科 | 發動機科 | 飛行機科 | 廢務科 | 分科 | 人員 |
| 將校同相當官 六八、技師一二、准士官下士判任文官技手八四 | 大(中)尉 二 | 二 一 二 | 技 大尉 二 三 | 技 大尉 二 三 中(中)佐 一 大(中)佐 一 | 技 大尉 三 六 中(中)佐 一 中(少)佐 一 大(中)佐 一 | 技 大尉 三 五 中(中)佐 一 中(少)佐 一 大(中)佐 一 | 技 大尉 三 五 中(中)佐 一 中(少)佐 一 大(中)佐 一 | 技 大尉 一 一 中(中)佐 一 中(少)佐 一 大(中)佐 一 | 將校同相當官 | 將校同相當官 |
| | | 技 看護長 一 二 | 技 下士官 二 四 | 技 下士官 二 四 | 技 下士官 五 八 | 技 下士官 三 六 | 技 下士官 三 六 | 技 下士官 三 七 | 准士官以下 | 准士官以下 |
| | 歐米諸國ニ於テ航空機ノ發達及趨勢ノ調査 | 航空ノ衛生及心理ニ及ボ又影響並其防護法ノ研究 | 氣流試驗 物料抗力試驗 電氣光学及熱学ニ関スル試驗 化学分析、塗料、燃料、滑油等ノ試驗 球皮ニ関スル試驗 | 氣球ノ研究 瓦斯及瓦斯發生機ノ研究 氣球隊用特殊車輛ノ研究 | 航空機用諸計器ノ研究 爆彈投下器、照準具ノ研究 機關銃、裝備及照準具ノ研究 通信器材、照明器材ノ研究 寫真器材ノ研究 航空隊用特殊車輛ノ研究 | 各種發動機ノ研究 發電機、氣化器、放熱器等ノ研究 | 各種飛行機ノ研究 螺旋機ノ研究 | 一般廢務 兵器器材ノ保管出納 營繕及設備ニ関スル事項 工場及作業ノ監督 飛行場其他ノ管理及飛行試驗ノ実施 經理 | 主 | 要業務 |

(三)

第五 航空廠ニ就テ

一、航空器材ハ頗ル多種多様ニシテ其喪遷及衰損共ニ速ナルヲ以テ平時ニ於テモ其補給業務ノ繁多ナルコト他ノ兵器ト大ニ趣ヲ異ニセリ殊ニ戰時ハ大規模ノ航空補給機關ヲ必要トスルハ歐洲戰役間ニ於ケル列強ノ施設ニ徴スルモ明ナリ是ヲ以テ平時ヨリ陸軍航空本部ノ隸屬機關トシテ航空廠ヲ設ケ航空器材ノ調辨、貯蔵及補給ニ任セシムルト同時ニ有事ノ日之ヲ擴張ノ基幹ヲラシムルヲ要ス

二、航空廠ハ概テ兵器廠ノ例ニ倣ヒ計画部タル本廠ト現品取扱部タル支廠トニ分割スルヲ最モ適當トシ航空本廠ハ陸軍航空本部(第三部)ト密接ナル連繫ヲ保テ且物資ノ調査、注文、購買ニ容易ナル爲之ヲ東京ニ置クヲ可トス

現品ノ受領、貯蔵及支給ニ任スヘキ支廠ハ航空器材製造工場

及航空部隊ニ近ク交通便ナル地ニ設クルノ必要上所澤及各務
ヶ原ノ外尚航空部隊ノ所在地ノ若干ニ之ヲ配置スルヲ要ス
九州航空部隊ノ爲ニ設クル航空支廠ハ門司附近ニ設置シ平時
ニ於テハ海外(朝鮮及台湾等)ヲ送ル器材ヲ取扱ヘシメ戰時ニ
於テハ集積廠ニ等シキ任務ヲ課スルヲ有利トス

三、所澤及各務ヶ原ノ兩航空支廠ハ東京及名古屋ニ近ク其取扱フ
ヘキ器材ノ數量並業務ハ他ノ航空支廠ニ比シ重要ナルヲ以テ
若干ノ増員ヲ必要トス

完備飛行機ノ補給ハ空中輸送ニ依ルヲ利益トス故ニ飛行空中
輸送ニ從事セシムル爲各支廠ニハ必要ニ應シ航空技手若干名
ヲ置クヲ可トス

四、各航空支廠ハ航空器材及消耗品(修理材料及油類等)ノ貯蔵ニ
要スル倉庫及貯槽ヲ有スルノ外自己ノ業務上必要ナル小工場
ヲ有シ其作業ハ飛行機及發動機ノ荷造分解組立及手入ヲ行ヒ

得ルヲ度トス然レトモ重要ナル位置ニ在リ或ハ製造所トノ連
絡不便ナル支廠ニハ飛行機ノ修理及廢品整理ノ爲所要ノ修理
工場ヲ附属スルヲ可トス

[Faint, mostly illegible handwritten text in vertical columns]

第六 航空工廠ニ就テ

本邦ニ於ケル民間航空機工業ハ頗ル幼稚ニシテ現在民間ニ於ケル陸軍用飛行機ノ製作數ハ其所要數ノ一小部分ニ過キス而モ技術拙劣ニシテ製作期日ノ遲延甚シキ状態ナリ、之カ指導獎勵ニ勉メツツアルモ近キ將來ニ於テ陸軍ノ需用ヲ満足シ得ル程度ニ達セサルヘシ況ンヤ新鋭飛行機ヲ創成シ之ヲ軍部ニ供給スルカ如キハ到底望ミ能ハサル所ナリ、且後ニ述フル如ク戦時ヲ考慮スルトキハ航空機ノ製造ヲ民間ニ一任スルハ甚タ危険ナリ故ニ少クモ官立工場ニ於テ其一部ヲ製作シ自ラ其進歩改善及製作技術ノ向上ヲ圖リ以テ民間製造者ニ對シ範ヲ示シ之ヲ指導スルヲ要ス

ニ 飛行機ハ其變遷速カナルト構造上長日月ノ格納ニ堪エサルトニ依リ戰用飛行機ハ年々新陳交換ニ之ヲ平時用飛行機ニ充

當セサルヘカラス故ニ戰用トシテ貯藏スヘキ完全飛行機數ハ
 概ネ平時一年間ノ所要數ヲ以テ限度トシ其他ハ半製品或ハ素
 材ヲ以テ貯藏スルヲ要ス今大正二十三年帝國陸軍充實期ニ於
 ケル陸軍航空兵力ニ就キ考フルニ平時一箇年ノ所要飛行機數
 ハ約一八〇〇機ニシテ二倍動員ヲ行フトキハ動員用飛行機ノ
 所要數ハ約一八〇〇機戰役中一年間ノ補給所要數ハ約九〇〇
 〇機ナリ之ニ由テ觀ルニ開戦ト共ニ工業動員ヲ行ヒ數ヶ月ノ
 後ニハ平時製造力ノ五倍ニ達セシメサルヘカラス
 斯ノ如キ急激ナル擴張ハ數倍ノ地積ヲ有シ平時ヨリ戰時工場
 ノ大部ヲ建設シ機械ハ据付ヲ終リ巨額ノ素材ヲ準備シ置クニ
 アラサレハ實現不可能ニシテ此等ノ施設ヲ民間工場ニ期待ス
 ルハ適當ナラス民間工場カ擴張ノ實ヲ舉グルニ至ル迄ニハ少
 クモ十數月ヲ要スヘシ從テ此間ニ於ケル作戰上ノ需要ハ官立
 工場ノ急激ナル擴張ニ依リテ之ヲ充足スルノ策ニ出テサルヘ

カラス

是ヲ以テ官立工場ヲ設立シ戰時擴張ニ要スル基幹職工ヲ保有シテ平時ハ飛行機及發動機等ノ模範的製作ニ從事セシメ有事ノ日ハ急速ニ數倍ノ擴張ヲ行フニ必要ナル工場、機械及素材ノ準備ヲ完全ニシ以テ開戰初期ニ於ケル作戰ニ支障ナカラシムコトヲ期セサルヘカラス

三 現今飛行機製造ニ任セル陸軍工場ハ陸軍航空部補給部所澤支部及東京砲兵工廠ナリ而シテ機體ノ製造ハ所澤支部並東京砲兵工廠砲具製造所及熱田兵器製造所ニ於テセルモ此三者ハ孰レモ前ニ述ヘタル官立工場設置ノ主旨ニ適合セス何トナレハ所澤支部ハ從來數次ノ補足的増設ニヨリ今日ニ至リタルモノニシテ設備雜然到底模範的作業ニ適セサルノミナラス毫モ擴張ノ餘地ヲ有セス又砲具製造所及熱田兵器製造所ハ各々本業ヲ有シ飛行機製造ハ其副業ニ過キサルヲ以テ戰時ニ於テ

大ニ之ニカラ致ス能ハス而カモ擴張ノ餘地少シ故ニ戰時擴張ノ顧慮ヲ以テ別ニ機體製造所ヲ新設シ機體製作ヲ茲ニ統一スルヲ要ス

之ニ反シ機器製造所ハ發動機製作ノ爲特ニ建設セラレタルモノニシテ其設備整ヒ將來擴張ノ餘地亦十分ナリ更ニ之ニ戰時擴張ヲ豫期シテ若干ノ増加施設ヲ行フトキハ模範的工場タルヲ得ヘシ

機體製造所ノ位置ハ物資ノ調達及輸送ニ便ナル地ニ選ミ且飛行試験ノ爲附近ニ飛行場ヲ有スルヲ要ス從テ東京近傍ヲ可トス而シテ所澤支部ノ工場ハ概ネ現在設備ノ儘之ヲ航空學校ノ附屬工場トシ同校使用飛行機ノ修理ニ任セシメ又陸軍航空技術部ノ試験品製作ヲモ擔任セシム

四 凡ソ航空器材ノ製作ニ於テハ其急速ナル変遷ト航空部隊ノ實情トニ應シテ敏活ニシテ機宜ニ適セル處置ニ出テ絶エス改

善進歩ヲ圖ラサルヘカラス故ニ航空機ノ製造所ハ陸軍航空ノ統轄機關ニ隸屬シ敏活且適切ニ業務ヲ處理シ他ノ中間機關ヲ今スルカ爲ニ生スル意見ノ背馳ト時日ノ空費トヲ避ケサルヘカラス

是ヲ以テ機器製造所ヲ東京砲兵工廠ヨリ分離セシメ東京近傍ニ新設スヘキ機體製造所ト合シテ航空工廠ヲ組織シ陸軍航空本部長ニ隸屬スルヲ要ス而シテ工廠本部ハ陸軍航空本部ニ近キ機體製造所構内ニ置クヲ可トス

航空工廠ノ主要業務ハ飛行機體、同部品及其附屬品並發動機同部品及其附屬品ノ新造ニシテ氣球及螺旋機其他ノ飛行機裝備品ハ民間工場及他ノ官立工場ノ製造ニ依リ供給シ得ル見込アルヲ以テ此等ノ器材ハ航空工廠ニ於テハ單ニ研究試作スル程度ニ止ム

機體ノ修理ハ航空學校ニ在リテハ其附屬工場、航空隊ニ在リ

テハ其材料廠又ハ航空支廠附屬修理工場ニ於テシテニ重要作業ニ限り其製造所ニ於テス而シテ發動機ノ修理ハ通常其製造所ニ於テスルモノトス

五 航空工廠ノ規模ハ飛行機及發動機ノ製作數幾何ヲ標準トスヘキヤハ民間工業發達ノ状態ト戰時殊ニ開戰初期ニ於ケル補給ノ關係トヲ顧慮シテ定ムヘキモノニシテ平時ハ民間工業ヲ支持獎勵スル爲比較的多クヲ民間製造ニ移スヲ可トス而シテ民間工業ハ十分ナル年月ヲ藉ストキハ大ナル擴張ヲ實施シ得ヘント雖急速ニ數倍擴張ヲ要求スルコト困難ニシテ民間工業ニ對シテハ戰時四倍擴張ヲ以テ標準トスルヲ適當トス、此主旨ニ依リ平時所要飛行機數ノ約三分ノ二ヲ民間製造トシ戰時ハ之ニ四倍ノ擴張ヲ爲サシムルモノトセハ民間ニ於ケル年製數ハ平時一〇〇機、戰時四〇〇機トナルヲ以テ航空工廠ハ平時六〇〇機、戰時四、二〇〇機ヲ製造スルヲ要スヘシ故ニ航

空工廠ノ平時製造力ハ年製六〇〇機（日製二機弱）ヲ標準トシ
開戦ト同時ニ七倍擴張ヲ行ヒ得ル如ク諸設ノ準備ヲ爲シ置ク
ヲ要ス

第七 大(公)使館附航空補佐官ニ就テ

航空ニ関スル諸般ノ諜報ハ國防上極メテ重大ナルニ至リ一般諜報勤務ト共ニ列國ノ航空制度、施設、航空部隊ノ配置、編制、勤員並航空機及同製造工業發達ノ状態、歐洲戰ノ結果ニ基ク航空部隊用法ノ趨勢等ヲ常ニ密實ニ調査シ置クヲ緊要トス而シテ此種ノ諜報ハ現在ノ大(公)使館附武官及同補佐官ノミニテハ其任務ノ廣汎ナルト航空智識ノ關係上到底所期ノ成果ヲ期待スルヲ得ス是レ各國カ航空武官或ハ之ニ類スル者ヲ諸外國ニ派遣シアル所以ナリ

列強中最モ貧弱ナル我航空界ニ對シ既ニ英、米、伊、佛、四國ハ航空武官又ハ此業務ニ從事スル將校ヲ配置シアルニ拘ラス最モ之カ派遣ノ急務ヲ感シアル帝國陸軍カ殆ント何等ノ處置ヲ講シアラサルハ頗ル奇觀ト謂ハサルヘカラス

本問題ハ識者ノ間ニ唱導セララルコト既ニ久シク、我在歐米大使館附武官モ亦航空武官又ハ航空補佐官ノ派遣ニ関シ或ハ電報ヲ以テ或ハ書面ヲ以テ意見ヲ具申セル者尠カラス然ルニ未タ之カ實現ヲ見ルニ至ラサルハ國軍ノ爲誠ニ遺憾トスル所ナリ

二 航空ハ國防上極メテ重要ナル要素タルノミナラス陸軍、海軍及民間(輸送及郵便ヲ含ム)ノ三航空事業ハ相関聯スル所多キヲ以テ此三者ヲ合一シテ大(公)使館附陸海軍武官ト對立セル航空武官ヲ列強ニ派遣スルハ最モ理想トスル所ナルモ未ダ陸、海及民間ノ三航空ヲ統一セル機關存セサル本邦ノ現況ニ於テハ陸軍ハ取敢ス大(公)使館附陸軍武官ノ下ニ航空補佐官ヲ増加シ航空ニ関スル牒報勤務ニ服セシムルヲ可トス
航空補佐官ハ一般軍事智識ニ富ミ特ニ航空ニ精通セル佐(尉)官トシ差當リ米、支、英、佛、獨、伊ノ六ヶ國ニ配置スルヲ要ス

航空補佐官ハ航空ニ関スル謀報ヲ主トスルモノニシテ航空
 制度、技術等ノ研究ノ爲歐米ニ出張セシムヘキ者トハ全然其
 目的ヲ異ニシ此等ノ研究員ハ航空補佐官ヲ設ケタルニ依リ廢
 止スヘキモノニアラス寧ロ將來ニ於テ益々多數ニ派遣スルノ
 必要アルヤ勿論ナリ

副官より委員長へ通牒案 (陸普)

大正九年陸訓第三一號ニ依ル陸軍航空制度研究委員ノ業務終了ニ付当該委員ノ編制ヲ解カレ候条及通牒候也

陸普第三〇七〇號 二月三十日



1110

6011

大

本委員會ハ大正九年十月
 七日シ大正十一年一月
 第五號報
 出取店トシ本月ニ至ル

1110

1110

大

陸軍航空制度研究委員長井上幾太郎
報告第一五三號

陸軍航空制度研究委員長井上幾太郎
報告第一五三號

陸軍航空制度研究委員長井上幾太郎
報告第一五三號

調査終了、件報告

陸軍航空制度研究委員長井上幾太郎

陸軍大臣山梨半造殿

當委員ハ設置以來別紙記載ノ事項ニ關シ調査研
 究シ其結果ハ都度報告致候處其細部ニ就テハ歐米
 ニ於ケル軍事航空ノ不断ナル進歩ヲ顧慮シ且豫算其他
 ト關聯シテ實行準備トシテ別途ノ研究ニ讓ルヲ至當
 相認メ當委員、調査ヲ打切り候條此段及報告候也
 追テ當委員解散方御取計相成様致度申添
 候

陸

軍

別紙

陸軍航空制度研究委員調査事項

空軍建設、利害ニ関スル研究

大正九年十二月二十四日附報告

航空兵科獨立並機關科分立、可否

大正九年十二月二十四日附報告

帝國陸軍戰時航空兵力

戰時航空部隊、編合

大正十年五月二日附報告

平時航空團隊並戰時補充部隊

戰時ニ於ケル航空統轄機關

戰時ニ於ケル航空器材補給機關

大正十年五月三十日附報告

戰時ニ於ケル航空教育機關

平時陸軍航空諸機關及制度

陸

軍

1112

第一 航空兵科將校下士、補充

第二 陸軍航空統轄機關

第三 航空諸學校

第四 陸軍航空技術部

第五 航空廠

第六 航空工廠

第七 大(公)使館附陸軍航空補佐官

大正十一年一月三十一日附報告

臣

宣